

全船協

会報 161 号 2026年 5 月 春季号



「若潮丸」 富山高等専門学校 提供



一般社団法人

全日本船舶職員協会

JAPAN MARITIME OFFICERS' ASSOCIATION

無料船員職業紹介所（国土交通省許可第8号）

URL <https://www.zensenkyo.com>

一般社団法人 海洋会

会長 関根 博

〒135-0044 東京都江東区越中島2-1-6
東京海洋大学越中島キャンパス内
海の研究戦略マネジメント機構越中島オープンラボ棟1階
電話 (03) 6458-8215
FAX (03) 6458-8214
E-mail: honbu@kaiyo-kai.com

ラッシング・チョッキング資材の総合サービス

株式会社 ウシオ



代表取締役社長 牛尾 雅英

〒652-0813 兵庫県神戸市兵庫区兵庫町2丁目3番27号
電話 (078) 652-2065 / FAX (078) 652-2070
<http://ushio-kk.co.jp>
東京/横浜/常陸那珂/名古屋/大阪/和歌山/加古川/門司/福岡/香港

未来は、海からやってくる。
日本海事新聞

The Japan Maritime Daily

試読・購読のお申し込みは
電話 **03-3436-3223** まで

<https://www.jmd.co.jp/>

船舶、船舶装備器具及び部品の販売、輸出。作業船の
賃貸船舶修理、検査工事の請負及びコンサルタント。

K2 シップマネジメント株式会社

〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼1-13-14
パークノヴァ横浜・荻番館306

電話 : 045-290-6082 FAX : 045-290-6916
E-mail: kani@ksh.biglobe.ne.jp



北星海運株式会社

代表取締役社長 加藤 由起夫

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号
セントラルビル6階
電話 (03) 3275-5520(代) FAX (03) 3275-5575



一般社団法人
日本船舶機関士協会

会長 庄 司 勉

〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目5番地
(海事センタービル5階)
電話 (03) 3264-2518
E-mail: me-honbu@marine-engineer.or.jp
URL <http://www.marine-engineer.or.jp>

関門水先区水先人会

会長 中 野 精 一

〒801-0841 北九州市門司区西海岸1丁目2番13号
電話 (093) 332-2384(代)

海上の友

船員と船員家庭のタブロイド版新聞 毎月1日発行
購読料 1ヵ月542円(税込・送料別)

お申し込み
お問い合わせ (公財)日本海事広報協会

〒104-0043 東京都中央区湊2-12-6
電話 (03) 3552-5034 FAX (03) 3553-6580

宿泊設備 (海員会館) のご案内

ご宿泊・お食事・ご会合に、どなたでもご利用頂けます。

ナビオス横浜



※写真はイメージです。

ナビオス横浜



1階 レストラン



3階 バーラウンジ

Seamen's Club



ナビオス横浜
International Seamen's Club & Inn
TEL : (045) 633-6000

川崎海員会館 TEL : (044) 233-5896

エスカル横浜 TEL : (045) 681-2141

エスカル神戸 TEL : (078) 341-0112

一般財団法人日本船員厚生協会 (045) 319-4506

ホームページ <https://www.jswa.or.jp>

目 次

表 紙 …「若潮丸」 富山高等専門学校

巻 頭 言『広島丸起工式』.....会長 広重 康成 … 1

「富山高等専門学校練習船「若潮丸」の航海」.....校長 國枝 佳明 … 3

“船員の労務軽減の可能性を探る”.....合同会社 海と緑の技術研究舎 平賀 和徳 … 6

赤池まさあき国政ニュース ～国づくり、地域づくりは、人づくりから 赤池 誠章 … 8

北から南から

富山高等専門学校 10

鳥羽商船高等専門学校 19

広島商船高等専門学校 27

大島商船高等専門学校 30

弓削商船高等専門学校 34

海技教育機構 41

本部・支部だより 事務局 …43

賛助会員名簿 事務局 …44

2025 年度会員・準会費納入者名簿..... 事務局 …45

時事寸評・表紙写真解説・編集後記..... 事務局 …46

事務局からのお願い

会員の皆様におかれましては、当協会の活動にご協力いただきありがとうございます。
転居等で住所変更が生じた場合は、ホームページの「会員用ページ」より、住所変更が可能ですのでご利用ください。また、メール等による連絡でも結構です。

TEL:03-3230-2651 FAX:03-3230-2653

E-Mail : honbu@zensenkyo.com

HP : <https://www.zensenkyo.com>

『広島丸起工式』

代表理事・会長 広 重 康 成



1973 年、航海訓練所の三等航海士に引率されて着いたのは浦賀ドックでした。初代の帆船日本丸は渠底に据えられていて、想像よりも細身に見えました。これから半年間、本物の外洋を航海する大型帆船に乗船し、実習生として訓練を受けることに武者震いを覚えていたのは、私だけではなかったと思います。

全船協のホームページに掲載されている通り私たちの前身は「全国商船学校十一会」と称します。略して「じゅういちかい十一会」です。その学校とは、函館、富山、鳥羽、児島（岡山県）、島根、栗島（香川県）、弓削、広島、大島、佐賀、鹿児島です。

昭和初期まで各学校の校内練習船はせいぜい 200 トンから 1,000 トン未満の木造帆船でありました。いずれの学校でも遭難事故が相次ぎ、そんな中 1927 年（昭和 2 年）3 月 9 日鹿児島商船学校の練習帆船霧島丸が伊豆下田港に寄港後、マーシャル諸島へ向かう途中、千葉県犬吠埼沖で荒天のため遭難し教職員 23 名、実習生 30 名、合計 53 名の行方不明者を出し社会問題となりました。そこでこのままではいかんと立ち上がったのが私たちの先輩方です。

さっそく国へ、外洋を走ることができる大型練習帆船建造のための陳情活動を展開します。そして昭和 5 年、ついに初代となる帆船日本丸ならびに海王丸が誕生するに至りました。これを契機に「じゅういちかい十一会」として正式に法人化されたのでした。

それから 95 年の歳月は流れ 2026 年 3 月 11 日、新しい広島丸の起工式が同じ浦賀の地で建造されるという偶然は何とも嬉しいことはありませんか。真っ青な春の空が広島丸の起工式のために待ち構えていたかのように澄み渡っています。ありがたいことに、京急線追浜駅おっぱまからドックまでシャトルバスが準備されていました。

思い返せば 3 年前となる 2023 年 3 月、まず大島丸が新しくなりました。電気推進です。リチウムイオンバッテリーを搭載して、エンジンとバッテリーを組み合わせたハイブリッドモーターでプロペラを回します。非常に静かです。また、船内の照明はフルカラーの LED が使われています。

次いで 2024 年 3 月弓削丸が誕生しました。可変ピッチプロペラを持ち、ブリッジの両舷外回りには電光掲示板が設置されています。機関部は防振対策も施されています。

そして昨年 2025 年 3 月鳥羽丸の竣工です。自律航行システムが搭載されています。災害時には船舶型携帯電話基地局となります。船首は V 型ステムを採用。減揺タンク装置を取り付けたことにより、横揺れを 40%抑制できます。

そして今年 2026 年 3 月 20 日、第 4 船目となる富山の若潮丸が竣工引渡式を迎えます。皆さんがこの会報をご覧になっている頃は既に学生諸君や地元の皆さんを乗せて実習航海や体験航海をしていることでしょう。詳しいスペックは会報記事に譲らせて頂きます。

広島丸まで無事誕生の筋道を築いて頂いたのは私の前任者、酒迎会長のご尽力の賜物です。謹んで感謝申し上げます。

新しい広島丸の胎動が始まりました。どんな個性を持つ練習船になるのでしょうか楽しみです。皆さんと一緒に誕生するその日を待ちましょう。

ご安全に！



富山高等専門学校練習船「若潮丸」の航海

富山高等専門学校 校長 國枝 佳明

1. はじめに

富山高等専門学校練習船「若潮丸」は、三菱重工業株式会社下関造船所にて完工し、富山新港の専用岸壁に回航され、2024年3月13日に引き渡しを受けました。当日は寒さの厳しい日でしたが、清祇の儀式の最中に突然の霰が降り、まるで神様が降臨されたかのような厳かな雰囲気に包まれました。

その後、3月20日には福田文部科学大臣政務官にもご臨席を賜り、竣工記念式典、内覧会、祝賀会が執り行われました。本船は、令和7年3月6日に起工し、同年10月23日の進水、艤装工事を経てこのたび無事竣工の運びとなりました。

大島商船高専の「大島丸」を皮切りに、商船系高専の練習船はシリーズ船として順次建造され、弓削丸、鳥羽丸に続く第4船が本校の「若潮丸」です。本船の概要については前号（新年号）に掲載しましたので、今回は若潮丸が担う各種活動を中心に紹介いたします。



写真1 試運転中の若潮丸

2. 次世代の海洋人材の育成事業の強化

若潮丸は、次世代の海洋人材育成に向け、大きく貢献することが期待されています。

商船系5高専では、全船協を含む関係団体と連携し、平成18年度より質の高い海事人材育成のため教育システムの再構築を進め、「海事技術者のキャリア育成プログラム」の一環として取り組んできました。その後、いくつかの変遷を経て、現在は文部科学省「国立高専における次世代の海洋人材育成事業」の一環として「海事・海洋分野の人材育成事業」を推進しています。

急速に変化する海事分野において、本校では関連団体との連携を通じ、実践的で最先端の知識・技術を学べる環境づくりを進めています。さらに本事業の新たな取組として、

①データサイエンスの素養を備えた船員の育成

②グリーンイノベーションに対応できる船員の育成を掲げ、海運DX人材・海運GX人材の育成を目指しています。

若潮丸では、最新の計測システムやシミュレーション環境を整備し、これらの人材育成に最適な実海域教育・訓練が可能となっています。また、富山高専は数学・データサイエンス・AI教育に力を入れ、文部科学省のリテラシー・応用基礎レベル認定も取得しており、船上で収集される各種データを活用した実践教育を通じ、海事分野で活躍するDX人材育成を推進しています。



図1. 次世代の海洋人材の育成に関する事業の変遷と関係機関*

*<https://www.nc-toyama.ac.jp/project/met-ng/about/>

3. 災害支援機能

近年、国内では地震・豪雨・台風など多様な自然災害が頻発しており、海上輸送力を活用した広域支援の重要性が一段と高まっています。若潮丸には、こうした社会的要請に応えるための災害支援機能が計画段階から組み込まれており、単なる教育訓練船にとどまらず「海上の支援拠点」としての役割を果たせるよう設計されています。

本船には給電・給水設備のほか、大容量蓄電池や可搬式発電機を搭載しており、停電した沿岸地域に対して電力や生活用水を供給することができます。また、シャワーや休憩スペースなど、避難者にとって身近で安心感のある環境を一時的に提供することも可能です。

さらに、船内に通信拠点機能を備えることが可能であることも特筆すべき特徴です。災害時には陸上の通信インフラが被害を受ける可能性が高く、情報の途絶は現場の混乱を増幅させます。若潮丸では大手通信キャリアとの連携協定も締結されており、緊急時には海上から通信網を補完する役割を担います。

先代若潮丸は能登半島地震の際に飲料水を七尾港へ届ける支援を行いました。この経験は新しい若潮丸にも受け継がれており、商船系5高専は「練習船の災害時対応に関する申し合わせ」や「災害支援マニュアル」を策定し、定期的な訓練を通じて即応性を高めることとしています。若潮丸は、平時の教育訓練だけでなく、地域社会を災害から守る重要なインフラとしても活躍できる船舶です。



写真2 能登半島地震で七尾港に飲料水を陸揚げする様子(先代の若潮丸)

4. 海洋観測・調査研究機能

若潮丸の大きな特徴の一つは、富山湾という世界的にも稀有な環境を活かした海洋観測・調査研究が行える点です。富山湾は最大水深1,000mを超え、海岸から急激に深くなる独特の地形を持つ「外洋性深海湾」として知られています。深海から湧き上がる冷たい水塊や複雑な流れ、豊かな生態系など、研究対象として非常に多くの魅力を備えています。

こうした海域において、若潮丸はAフレームクレーンを用いた深海観測機器の揚降作業や、ROV（無人探査機）を利用した海底観察、CTD観測による水温・塩分・密度の測定、水質分析、海底地形の精密測量など、多面的な調査が可能です。これらの観測活動は富山湾の海洋環境の理解を深めるだけでなく、気候変動や海洋汚染、深海生物の生態といった非常に興味深い課題の研究にもつながります。

学生にとっては、机上の知識だけでは得られない「実海域での科学的探究」を体験できるまたとない機会です。観測機器の扱い方、データの収集と解析、研究成果の整理など、一連の科学的プロセスを実際の海を舞台に学ぶことができ、将来の技術者・研究者としての基礎が培われます。さらに地域の研究機関や大学、行政とも連携し、富山湾の環境保全や地域資源の活用に関与する共同研究の展開も期待されています。

5. 地域への貢献と海事普及

若潮丸は、地域社会への貢献活動においてもその力を発揮します。練習船に乗船し、船員の仕事や海洋観測を体験できる機会は、子どもたちにとって大きな刺激となります。体験航海、船内見学会、海洋観測体験などを通じて、海への理解と関心を深め、「海が身近な地域」である富山の特色を次世代につなげていく役割も果たします。

また、地域の学校との連携授業や、夏休みに合わせた一般向け体験イベント、海の日関連行事など、多彩なプログラムの展開が計画されています。船橋での操船体験、機関室の見学、救命胴衣の着用訓練、富山湾の地形や生態系を学ぶ講座など、体験型の海洋教育は参加者に深い印象を与え、将来の進路選択に影響を与える場合も少なくありません。

このほか、港湾施設の啓発イベントや自治体との協力事業、海に関する文化・歴史の発信など、若潮丸は「海の学び」を地域と共有する媒体として活用

されます。海運や海洋研究の重要性を広く理解してもらうことは、社会全体の海事リテラシー向上に寄与し、ひいては地域の発展にもつながります。

6. おわりに

若潮丸の建造においては、造船所はもちろん、多くの関係機関、地域の方々、そして全船協・同窓会の皆様より力強いご支援を賜りました。心より感謝申し上げます。新たな若潮丸は、単なる後継船ではなく、これからの海洋教育・研究・地域貢献を担う“未来への投資”そのものです。

若潮丸の航海は、まだ始まったばかりです。本船での実習を通じて、学生たちは実技能力にとどまらず、海洋環境を理解し、災害時に地域の力となる柔軟性と判断力を身につけていきます。

富山高専が推進するデータサイエンス・AI 教育と若潮丸での実践教育が結びつくことで、海運 DX・GX を先導する新しい世代の海洋人材が育成されることは間違いありません。

また、若潮丸は富山湾という独自の海域を舞台に、研究・教育・地域貢献をつなぐ拠点として活躍し、富山高専の特色を全国・世界へ発信していく存在となるでしょう。

これからも、若い世代が海を学び、海を知り、海を通じて社会に貢献できるよう、教職員一同、若潮丸とともに歩んでまいります。



写真3 試運中の転若潮丸(上空から)

“船員の労務軽減の可能性を探る”

合同会社 海と緑の技術研究舎 平賀 和徳

○船員は、「五感」で船を守っている？

船員の不足が昨今挙げられる中で、現在、海運会社に足を運びヒアリングと課題の明確化を行っております。そこで感じたのは、船員は五感に頼る部分が多いという現状でした。図1は、日本船舶機関士協会の故障情報データベースの一部をグラフ化したものになります。機関室の補機類については、約半数が五感により発見されております。五感の中には、音、振動、匂い、漏れなどがあり、経験に基づいて発見される内容が多くを占めております。現場でよく聞くのは、「なんかいつもと違う」という感覚から異常に気付くケースです。このような感覚は数値には表れにくく、現場にいる人間だからこそ気付ける重要な情報であると感じています。

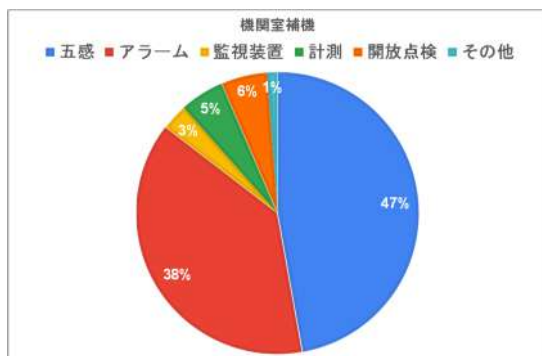


図1 トラブル発見方法の内訳

○船員不足と“ベテラン依存”の現実

一方で、これらの五感による発見は、ベテラン船員の豊富な経験を基に成り立っていると考えます。実際に行く先々で船員不足に悩まれている企業が多く、「人は欲しいが、すぐに戦力になるわけではない」という声をよく耳にします。船は経

験がものを言う世界であり、単純に若手を増やせば解決する問題ではありません。また、この技術の継承も簡単ではなく、若手船員は乗船を繰り返しながら、時間をかけて身に付けていく必要があります。そのため、どうしても最終的な判断はベテラン船員に頼らざるを得ない場面が多くなっているのが現状です。



図2 中間軸開放点検の様子

目で見て触って確認する作業の中で得られる「違和感」は、数値には表れない重要な情報となります。

○マニュアルやアラームでは埋まらない部分

一方で、船の運航は決して属人的なものだけで成り立っているわけではなく、マニュアル化や各種アラーム、監視装置などにより、効率化や安全性の向上が図られています。しかし、実際の現場では「アラームにはならない変化」が数多く存在します。例えば、温度や圧力のわずかな変化、機器の微妙な挙動など、数値としては異常と判断されない範囲でも、違和感として現れるケースがあり

ます。こうした変化に対しては原因の特定が難しく、結果として「様子を見る」という判断になることも多いと伺いました。そして、そのまま夜間にアラームとして顕在化し、対応に追われるといったケースも少なくありません。このように、
「船を止めないためのアラーム」と「現場の負担を減らす仕組み」は、必ずしも一致していないのではないかと感じています。



○トラブルは“経験でしか学べない”のか

さらに現場の話を伺う中で印象的だったのは、トラブルに関する知識の多くが「実際に経験して初めて身に付く」という点でした。対応方法や判断のポイント、さらにはメーカーへの連絡先や過去の事例など、教科書的に整理されたものは少なく、現場での経験の積み重ねに依存している部分が大きいと感じています。また、メーカー側が持つデータや知見が十分に現場に共有されていないケースもあり、本来活用できる情報が活かされていないのではないかと印象を受けました。

○「五感のソフト化」という発想

こうした状況を踏まえたときに、船員の五感によって行われている異常の検知を、何らかの形で再現できないかと考えています。例えば、音や振動の変化、通常とは異なる挙動をデータとして捉

え、「いつもと違う状態」を検知する仕組みです。また、ベテラン船員の判断や対応の考え方を蓄積し、若手でも参考にできる形にすることができれば、技術継承の一助になるのではないかと感じています。もちろん、こうした仕組みは簡単に実現できるものではなく、各船会社が持つ膨大な作業レポートやデータの整理・活用が前提になると考えられます。現時点では仮説の段階ではありますが、こうした「五感のソフト化」という考え方は、今後の一つの方向性になり得るのではないかと感じています。

○おわりに

船舶の運航は、依然として人の力に大きく支えられています。その中で、現場の負担をどう減らし、技術をどう継承していくかは、今後ますます重要になると感じています。今回のヒアリングを通じて見えてきた課題を踏まえ、今後も現場に寄り添いながら、少しでも役に立つ仕組みを考えていきたいと思っています。

合同会社 海と緑の技術研究舎 平賀 和徳



日々勉強！
結果に責任！

前参議院議員(比例代表 全国区)

赤池まさあき

～ 国づくり、地域づくりは、人づくりから ～

令和8年(2026年)5月1日(金曜日)

自民党 Lib Dems
Liberal Democrats Party of Japan

国政ニュース

「海の日」7月20日固定化へ！

4隻目の富山高専「若潮丸」竣工！



3月20日 富山高専・新「若潮丸」前で
〈左から赤池、富山県知事、校長、全船協会長〉

最後の五隻目は広島商船高専！東京海洋大学プラネタリウム視察！
新緑の候、今後暑くなる中で、「ご自愛ください。」
昨年十月、私も長年応援してきた高市早苗総理・総裁が誕生しました。そして、今年二月には、衆院総選挙が行われ、高市自民党が歴史的な大勝を収めました。一方、三月に発生した米・イスラエルによるイラン紛争で、我が国の原油の九割が通過するホルムズ海峡の実質封鎖がなされた結果、エネルギー価格高騰に加え、物価高・石油由来資材不足という経済的危機に至りました。そこで改めて日本は海洋国家であり、日の丸商船隊の重要性が国民全体に再認識されることとなりましたが、本来は、常日頃からの共通認識であるべきだと私は思っております。

引き続き、活動を継続し、船員の安全確保とともに、海事振興・海洋教育推進に全力を尽くしてまいります。

◎富山高専・若潮丸竣工
そして、四隻目の富山高専の電気推進船大島丸、令和六年に弓削商船高専の遠隔教育可能な弓削丸、令和七年に鳥羽商船高専の自律航行で離着岸可能な鳥羽丸と、更新が進みました。

◎商船高専練習船の更新
三月、富山高専の若潮丸の竣工式に参加しました。振り返れば、海洋国家日本への担い手を支援すべく、十年前に海洋教育推進プロジェクトを設立し、七年前、全日本船舶職員協会はじめ海事諸団体や自治体から、商船高専五校の練習船の更新要望を頂いたことが出発点でした。要望を受け、富山高専の視察、自民党本部での集会開催、関係省庁への要望等を行い、その結果、老齢順の計画的な練習船更新の決定に繋がりました。

令和五年に大島商船高専の電気推進船大島丸、令和六年に弓削商船高専の遠隔教育可能な弓削丸、令和七年に鳥羽商船高専の自律航行で離着岸可能な鳥羽丸と、更新が進みました。

地元自治体の要望もあり、防災拠点としての機能や、女学生専用船室の設置、大きな倍増の五隻共通設計に加え、各学校の要望も入れ、特色ある練習船の新造となりました。



富山高専・新「若潮丸」船内で
〈富山高専海洋調査のための機器類〉

新練習船効果もあり、各校の学生募集も順調のことと、海洋国家日本への担い手育成に繋がっていることを大変嬉しく思っています。一方、出口となる海技教育機構の実習船が減船となることで、実習に対する懸念の声を頂いています。今年度から乗船実習の一部が陸上研修に代わり、新三級課程から実施されています。

専の若潮丸の更新となりました。竣工式の後、船内を内覧させて頂きました。同船の特徴は、富山湾を航行することから、海洋調査機能を備えていることです。

赤池 誠章（あかいけまさあき）
昭和三十六年山梨県生まれ。明治大卒。松下政経塾出身。専門学校の校長を経て、平成十七年、衆議院議員に初当選。平成二十五年の参院選比例代表(全国区)で国政復帰。令和元年、再選。国土交通委員会理事、文部科学大臣政務官、文教科学委員長、自民党文部科学部会長(三期)、内閣府副大臣、党政策調査会副会長(三期)、海事振興連盟常任理事等を務めた。高市総理が顧問の「保守団結の会」共同代表世話人、海事立国推進議員連盟参事、海洋教育推進プロジェクト座長は活動継続中。本年度より全日本船舶職員協会顧問に就任。

赤池まさあき事務所 連絡先

【郵送物】
〒104-8238 東京都中央区
銀座5-15-1-SP601
TEL : 03-6261-9225
FAX : 03-6261-9251

✉ contact-office@akaike.com

🌐 https://www.akaike.com

後援会員・自民党員を募集中！

出前講座うけたまわります！

～ 詳細は事務所まで ～



高市早苗 総理とともに



活動報告は
こちらから！



日々勉強！
結果に責任！

前参議院議員(比例代表 全国区)

赤池まさあき

～ 国づくり、地域づくりは、人づくりから ～

令和8年(2026年) 5月1日(金曜日)

自民党 Lib Dems
Liberal Democrats Party of Japan

国政ニュース

「海の日」7月20日確定化へ！

8月下旬、海大・海事普及会と商船高専生の交流会を開催！



2月26日 東京海洋大学内「明治丸」前で

が、その実態がどうなっているのか、引き続き注視してまいります。

◎東京海洋大・海事普及会
昨年十一月の海洋教育推進プロジェクトで東京海洋大学の海事普及会による取組みを学生から聞きました。同会は創立六十九年、七十八名の学生が、海事思想普及の為、各種活動を展開中とのこと。私からは、他の海事系の学校にも海事普及会と同様の取組みを拡大すべきと提案致しました。

その実現に向け、今年二月、東京海洋大学を訪問し、海事普及会の学生に校内を案内してもらいました。国の重要文化財であり、祝日海の日由来となった明治丸や、海事普及会の活動拠点で、現在も稼働する我が国

◎海大と商船高専生の交流へ
そこで、全船協の支援の下、八月下旬に、東京海洋大学で、海事普及会の学生と商船高専五校の学生との交流会開催を企画中です。

商船高専五校の学生向けに、東京海洋大学の明治丸等の施設の見学や、海事普及会の取組みをはじめ、プラネタリウムや海洋教室等の内容を踏まえた意見交換会

最古のプラネタリウムを視察しました。このプラネタリウム内で、学園祭等での公開講座を行うとのことでした。

海事普及会の学生との意見交換では、各地で海洋教室を開催したくても、広報や費用、時間等の制約があるとのこと。各地で同様の取組みが行われることは、大歓迎とのことでした。



同日 東京海洋大内・プラネタリウムで

◎長崎工業高で意見交換
また、九月十二日には、海事振興連盟主催の長崎タウンミーティングが開催されます。地域の海事団体からの要望を受け、官民で意見交換する場です。

それに合わせて、前日の十一日、海洋教育推進プロジェクトを開催します。今回は、造船人材育成で実績ある長崎工業高校の視察と、その場を借りての意見交換会を企画しています。その概要は次号で報告致します。

◎補正と今年度予算は
昨年十二月、今年度補正予算十八兆円が成立しました。その中には、我が国の成長産業とすべく、造船業の再生に一千二百億円の基金が創設されました。これにより、造船能力の抜本的向上(十年後に倍増の年一千八百万トン)に必要な生産基盤の強化や先進生産技術の開発・実証に支援がなされます。そして、今後、官民が連携して一兆円の投資を目指すこととなります。

また、造船業を担う人材育

の実施を予定しています。このような交流会を契機に、海大海事普及会と同様の取組みが、商船高専へ広がることを期待しています。

◎長崎工業高で意見交換
また、九月十二日には、海事振興連盟主催の長崎タウンミーティングが開催されます。地域の海事団体からの要望を受け、官民で意見交換する場です。

それに合わせて、前日の十一日、海洋教育推進プロジェクトを開催します。今回は、造船人材育成で実績ある長崎工業高校の視察と、その場を借りての意見交換会を企画しています。その概要は次号で報告致します。

◎補正と今年度予算は
昨年十二月、今年度補正予算十八兆円が成立しました。その中には、我が国の成長産業とすべく、造船業の再生に一千二百億円の基金が創設されました。これにより、造船能力の抜本的向上(十年後に倍増の年一千八百万トン)に必要な生産基盤の強化や先進生産技術の開発・実証に支援がなされます。そして、今後、官民が連携して一兆円の投資を目指すこととなります。

また、造船業を担う人材育

成も急務となっております。既存八大学や工業高校のみならず、商船高専も重要な役割が求められることになると思います。

一方、四月には、今年度予算案百二十二兆円と税制改正案がまとまりました。

海事関係予算は百六億円で、①海事産業競争力強化・生産性向上、②海事分野でのGX推進、③海事人材の確保育成、④海上安全対策等の推進、⑤海事振興その他、となっております。

さらに、海事関係予算以外でも、①離島航路確保維持、②モーターシフト等の促進、③海事観光推進、④国研経費、⑤海事技術の海外展開、⑥海事行政DX、⑦鉄道運輸支援機構海事勘定が盛り込まれています。

そして、税制改正では、①船舶特別償却制度の延長、②特定事業用資産の買換え特例、③地球温暖化対策税還付、以上三点の三年間延長があり、千二百三十億円の減税となります。

「日本の繁栄は海事振興にあり！」をモットーに、国と産業界の調整役として、今後海事振興に全力を尽くしてまいります。

(赤池まさあき)

成も急務となっております。既存八大学や工業高校のみならず、商船高専も重要な役割が求められることになると思います。

一方、四月には、今年度予算案百二十二兆円と税制改正案がまとまりました。

海事関係予算は百六億円で、①海事産業競争力強化・生産性向上、②海事分野でのGX推進、③海事人材の確保育成、④海上安全対策等の推進、⑤海事振興その他、となっております。

さらに、海事関係予算以外でも、①離島航路確保維持、②モーターシフト等の促進、③海事観光推進、④国研経費、⑤海事技術の海外展開、⑥海事行政DX、⑦鉄道運輸支援機構海事勘定が盛り込まれています。

そして、税制改正では、①船舶特別償却制度の延長、②特定事業用資産の買換え特例、③地球温暖化対策税還付、以上三点の三年間延長があり、千二百三十億円の減税となります。

「日本の繁栄は海事振興にあり！」をモットーに、国と産業界の調整役として、今後海事振興に全力を尽くしてまいります。

(赤池まさあき)



富山高等専門学校

○志峰祭

令和7年11月の2日間、本郷キャンパスにおいて第17回高専祭「志峰祭」を開催しました。「復活 (Revival)」をテーマに掲げ、これまでの歩みを大切にしながら、新たな挑戦へと踏み出す学生たちの思いが込められた行事となりました。当日は、各学科学年・学生団体による学修成果の展示や体験型企画を中心に、来場者が本校の教育・研究活動を身近に感じられる多彩なプログラムを実施しました。各学科の展示では、日頃の授業や実験・実習で培った知識や技術を、学生自らの言葉で紹介する姿が見られました。また、体育館を中心としたステージ企画では、吹奏楽部やピアノ部による演奏、ダンス部やバンドによるライブパフォーマンス、学生参加型の企画などが行われ、会場は終始活気に包まれました。さらに、本校の教育内容や産学連携・地域貢献の取り組みについての展示では、来場された中学生やその保護者、地域・企業関係者の皆様に、高専教育の特色や可能性を知っていただく機会となりました。2日間を通してのべ1500人のご来場をいただき、学生にとっては自身の学びを発信する貴重な実践の場となりました。本高専祭の開催にあたり、ご支援、ご協力を賜りました関係各位に心より御礼申し上げます。

なお、2026年の5月23日・24日には、第18回高専祭「北斗祭」が射水キャンパスにて開催されます。実行委員長の商船学科3年の富水琉花さんを中心に、再煌 ～Reignition～（「さいこう」と呼称する）をテーマに掲げ、趣向を凝らしたイベント、ステージ企画、クラス展示、クラブや同好会、保護者による展示や模擬店をはじめ、全ての人の心に残る最高の北斗祭になるように準備を進めています。ぜひお立ち寄りください。





志峰祭の様子



モノポリーを楽しむ様子

○令和8年度射水キャンパス学生会長が選出されました

12月17日に、令和8年度富山高等専門学校学生会射水キャンパス学生会長選挙が実施されました。今年度は1名が立候補し、選挙に先立って立会演説会が行われました。信任投票の結果、国際ビジネス学科3年の島 杏彩学生が令和8年度の射水キャンパス学生会長に決定しました。

○バレーボール部（男子）が北信越高等学校新人大会への出場権を獲得しました

本校バレーボール部（男子）が、令和8年1月17・18・24日に開催された令和7年度富山県高等学校新人大会バレーボール競技においてベスト4進出（3年ぶり）という好成績を残し、長野県長野市で開催された第26回北信越高等学校新人バレーボール大会に出場しました。

○本校学生・留学生で英語でのボードゲーム交流会を実施しました

令和7年12月22日に、射水キャンパスにて英語でのボードゲーム交流会を実施しました。射水・本郷の両キャンパスの留学生と日本人学生が参加し、すべての学生が英語でコミュニケーションをとりました。今回が初めて両キャンパスの学生・留学生を交えての交流会となりました。



ベスト4進出決定！



○交通安全講習会を開催しました

2月4日に、4年次から自動車通学が可能となる現3年生ならびに、専攻科へ進学する現5年生全員を対象として交通安全講習会を実施しました。近隣の警察所から講師をお招きして、令和8年4月から自転車にも適用されることになった交通反則通告制度（いわゆる「青切符」）についての解説や、キャンパスのある射水市管内での死亡事故の傾向、事故を起こしたら自身にどんな影響があるか等について、詳しくお話を頂きました。

○リーダー研修会を行いました

2月6日に、射水・本郷両キャンパスの2026年度学生会執行部に予定されている学生が一堂に会し、合同リーダー研修会が行われました。研修会では、2026年度の学生会行事計画、学生会の運営方針などが話し合われるとともに、キャンパス間での情報交換などが行われました。

○和海寮離寮式を開催しました

2月27日（金）に、本校射水キャンパス寮食堂にて、令和7年度和海寮（射水キャンパス学生寮）離寮式を開催しました。当日は、5年生・4年生・3年生のほか、寮担当教員および商船学科5年生の担任が参加し、5年生の和海寮からの門出を祝いました。式では、離寮する5年生の氏名が一人ずつ読み上げられた後、寮担当教員および4年生代表から、感謝や応援の言葉が贈られました。最後に、5年生代表から、寮生活での思い出や今後の決意が述べられた後、参加者全員で記念写真を撮影しました。5年生は同日、入学以来生活を共にしてきた友人たちとともに、和海寮を巣立っていきました。



5年生代表からの挨拶



参加者の記念写真

○学生の表彰・受賞について

課外活動等での活躍による今年度の表彰受賞学生は以下の通りです。

■スポーツ賞

- ・全国高等専門学校体育大会水泳競技優勝
電子情報工学科3年 白石 紗菜
- ・全国高等専門学校体育大会水泳競技優勝
商船学科2年 杉浦 勇人

■文化賞

- ・第19回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト
チーム部門優勝
国際ビジネス学科4年 フォルカーソン琉玖
国際ビジネス学科4年 ラパ ニキータ
シングル部門COCET特別賞
国際ビジネス学科4年 堺 紗子

■高体連・高文連関連表彰

- ・令和7年度富山県高等学校体育連盟 一般表彰
電子情報工学科3年 濱多佑杜、町田陵太郎
- ・令和7年度富山県高等学校文化連盟 特別賞
メカトロ技術研究部

（学生主事補 商船学科 福留研一）

○秋季オープンキャンパス

射水キャンパスでは令和7年11月に秋季オープンキャンパスを開催しました。商船学科では、「船員（航海士・機関士）の仕事を体験しよう」をテーマに、航海コースと機関コースに分かれたプログラムを展開しました。航海コースでは、海図を用いた航海計画作成の模擬授業を行い、安全運航に必要な判断力や計画立案の考え方を体験的に学びました。機関コースでは、船用ディーゼルエンジンの操作体験や内燃機関に関する模擬授業、燃焼実験の演示を通じて、船舶推進を支える機関士の役割と技術を紹介しました。

在校生による説明や補助も交え、参加者が船員という職業を具体的にイメージできる内容となり、商船学科の実践的な海事教育の一端を広く発信する機会となりました。



航海コース講座

○学童保育施設での出前授業

令和7年10月、富山県中新川郡舟橋村の学童保育施設にて、小学校1～4年生を対象とした出前授業を実施しました。

授業の冒頭では、商船学科の教員が「様々な輸送船のクイズ」や「船員の仕事・生活」に関する内容について説明を行いました。

続いて、商船学科の学生が運営する体験ブースにて、ロープワーク、船の造形と浮力の実験、配管モデルを用いた工具使用体験の3つの活動に取り組みました。これらの活動を通じて、船員の仕事に関連する技術や作業の一部に触れていただきました。

参加児童からは、「ロープで色々な結び方ができるようになって嬉しかった」、「自分の作った船が最初は沈んだけど、形を変えたら水に浮いてよかった」「ボルトがきっちり締まっていなくて、すき間からシャボン玉がブクブク出てくるのが

面白かった」といった感想が寄せられました。



ロープワーク指導



工具使用体験

○児童クラブを対象とした出前授業

令和7年11月、本校近隣にある親子クラブの自動を対象とする出前授業「ペーパークラフトでエンジンの仕組みを学ぼう」を実施しました。

商船学科の教員が講師を務め、「海運と船員の役割」や「エンジンの仕組み」に関する授業が行われた後、ペーパークラフトエンジンの製作や実際の船用エンジンの操作体験が行われました。

参加した児童や保護者からは、「エンジンを作るのが難しかったけれど、完成できて良かったです」、「授業、発火実験、工作、実機の体験と、幅広い内容がうまくリンクしていて、とても楽しかったです。」などといった感想が寄せられました。



ペーパークラフトエンジンの制作

○キャリアセミナー

令和7年12月4日(木)、商船学科1～3年生を対象に「海事キャリア教育セミナー」を開催しました。

本セミナーは、学生たちが将来のキャリアについて考える機会を提供することを目的に、「次世代の海洋人材の育成に関する事業」(海事・海洋分野の人材育成)の一環として、5つの商船系高等専門学校で、連携協力機関から現役の船員等を講師にお迎えして毎年実施しているものです。

本校では、一般社団法人日本船主協会から海事人材部課長(船長)の木村友紀氏を講師に迎え「日本の海運と外航船員」をテーマに講演いただきました。

講演では、日本の海運の概要や海技者(外航船員)の魅力、船内の生活環境等について、多くの写真を交えながらわかりやすくご紹介いただきました。さらに、船の種類により仕事の内容が異なるため、将来就職する会社がどのような船を運行しているのかを理解しておくことが重要であるとのアドバイスもいただきました。質疑応答では待遇に関する質問に盛り上がる場面もあり、大変有意義なセミナーとなりました。



講演の様子

○商船学科席上課程修了式

令和7年2月26日、商船学科5年生卒業研究発表会を開催し、これまでの学習成果をもとに1年間取り組んだ卒業研究の成果発表を行いました。翌日には、席上課程修了式が挙行政され、國枝校長からの訓辞、また代表学生から誓いの言葉が述べられました。

席上課程を修了した35名の学生は、4月から海技教育機構における長期乗船実習または外航船における社船実習に臨み、令和8年9月に卒業の日を迎える予定です。

○令和7年度卒業証書・修了証書授与式

令和8年3月、富山市芸術文化ホールにおいて令和7年度卒業証書・修了証書授与式が挙行政されました。本科生207名(商船学科を除く5学科)、専攻科生37名(海事システム工学専攻に所属し、東京海洋大学との連携教育プログラムを履修した学生1名を含む)、合計244名の学生に卒業証書、修了証書および学位記が授与されました。

○令和8年度入学式

令和8年4月、富山市芸術文化ホールにおいて令和8年度入学式が挙行政されました。入学者の氏名が一人ずつ読み上げられ、國枝校長より入学許可がありました。この後、國枝校長が式辞を述べ、新入生代表として物質科学工学科の学生と制御情報システム工学専攻の学生から代表挨拶が述べられました。

機械システム工学科	42名
電気制御システム工学科	42名
物質化学工学科	41名
電子情報工学科	42名
国際ビジネス学科	42名
商船学科	42名
エコデザイン工学専攻	29名
制御情報システム工学専攻	10名
国際ビジネス学専攻	3名
海事システム工学専攻	1名
(東京海洋大学との連携教育プログラム)	
3年次編入学留学生	3名



入学式

今年度、商船学科には北は東北から南は沖縄まで、1都1府12県から新入生が入学しました。入学式の翌日からは、始業式、新入生オリエンテーション、新入生学力テスト、部活動紹介などを実施しました。実家を離れ、慣れない土地での生活を始め

た学生も多くありますが、本校での学生生活や寮生活に徐々に慣れ、学業をはじめ多くの成長と楽しみのある日々を送ってくれることを願っています。

将来、海運業界を支える人材として大海原へ羽ばたく第一歩となるよう、教職員一同、学生一人ひとりを支援してまいります。

(教務主事補 商船学科 山田圭祐)

北斗会だより

練習船「若潮丸」V世 竣工

若潮丸船長 高専21期(航海科82期) 金山恵美

2026年3月13日新生「若潮丸」V世(以下「若潮丸」)が三菱造船株式会社様より富山高等専門学校へ引き渡されました。本校の歴代の練習船若潮丸は、昭和32年の初代若潮丸が就航し、現在の「若潮丸」で5代目となります。歴代の意思を引き継ぎ世界の物流を支える若者の育成を目的として晴れて竣工を迎えられたことに感謝申し上げるとともに、「若潮丸」の就航記念事業におきましては同窓会並びに同窓生の方々から力強いご協力をいただきました。この場をお借りして熱く御礼申し上げます。また、1995年に建造され30年にわたって安全運航で学生を見守り続けてくれた若潮丸IV世は2025年8月に最後の運航を終えその役目を終えました。最後の実習を終えた学生たちから思いのこもった寄せ書きをいただき若潮丸IV世とのお別れを行いました。11月19日に本校臨海実習用専用岸壁



最後の実習を終えた
学生たちの寄せ書き

から売船先へ回航しました。今後もどこかの海で活躍している姿に出会えることを祈っております。

30年ぶりに練習船を建造する機会に恵まれましたので、代船建造の様子や各記念式典の様子をご紹介します。

2025年3月6日三菱造船株式会社江浦工場において起工式が挙行政され、全船協広重会長、北斗会玉川会長、商船系高専校長及び本校教職員19名が出席し、本格的に代船建造が始まりました。船体はブロック建造法で建造され、船の詳細設計図をもとに、船全体をブロックに分割して、造船所内の工場で組立てた後、小ブロックをいくつか組み合わせ、ある程度の大きさのブロックにしたものを反転し船台に搭載していきました。船体の中に主機関や発電機を搭載し船の外観が出来上がった2025年10月23日三菱造船株式会社 下関造船所 江浦工場において、5世となる練習船「若潮丸」の命名・進水式が挙行政されました。



当日は、多数のご来賓にご臨席いただき、三菱造船株式会社の関係者、本校学生・教職員など、約140名が出席しました。式典では、独立

行政法人国立高等専門学校機構の谷口理事長が、練習船「若潮丸」と命名し、本校商船学科 5 年の森下紗也子さんと船木万莉さん、並びに商船学科 3 年の富水琉花さんの 3 名が支綱切断を行い、若潮丸は無事進水しました。なお、「若潮丸」の船名は、新田富山県知事による揮毫によって命名されたものです。命名・進水式には北斗会からのご寄付により本校商船学科 5 年生と射水・本郷両キャンパスの学生会代表が富山から参加させていただけることができました。学生たちの喜びはもちろんのこと教職員にとっても大変感慨深く学生たちが進水式会場に入場してきたときの嬉しそうな様子に胸が熱くなりました。本当にありがとうございました。



命名・進水式終了後、本校主催による練習船「若潮丸」命名・進水記念祝賀会が開催。その後の祝賀式典では、命名・進水を祝して鏡開き、玉川北斗会会長による乾杯の挨拶が行われ、出席者一同で新たな「若潮丸」の門出を祝いました。

その後、艀装工事、試運転などを経て 2026 年 3 月 13 日、1995 年以来 31 年ぶりのリプレースとなる「若潮丸」が竣工し、引き渡されました。本船は今後、乗船実習や、海洋に関する調査研究を通して、海洋人材の育成や、地域での社会貢献、海事思想普及に向けたさまざまな教育・地域貢献活動などにも従事する予定です。また、自然災害発生時の支援物資輸送や居住設備提供といった各種災害支援機能も有しています。

同日「若潮丸」船上において引き渡し式及び神棚への入魂式が行われ関係者一同、安全な航海を祈念しました。





竣工記念式典と 竣工をお祝いするテープカットの様子



3月20日には、竣工記念式典及び「若潮丸」内覧会並びに祝賀会が挙行され多くの来賓者の方々にご出席いただき新しい「若潮丸」の門出を祝いました。



新湊町立甲種商船学校発祥の地 碑の案内板設置

北斗会富山支部長 D6 石田勝志

2026 年、富山商船は創立 120 周年という記念すべき節目を迎えました。現在、射水市立新湊中学校の正門付近には、100 周年を記念した石碑が鎮座し、日々登校する生徒たちを温かく見守っています。このたび富山支部からの提案により、この石碑の前に「発祥の地」の由来や本校の歩みを記した案内板を設置する記念事業を計画いたしました。

発祥の地にほど近い中学校の校門前に、その誇り高い歴史を掲示することで、中学生に本校への親近感と興味を抱いてもらい、将来の航海士・技術者を目指すきっかけとなることを願っております。なお、内容の監修は島木元教官にご依頼し、看板製作会社とともに準備を進めております。

母校の魂を未来へつなぐ本事業に、何卒温かいご支援をお願い申し上げます。



射水市博物館の学芸員の協力のもと、貴重な古地図を広げる

当時の街並みや土地の区割りが詳細に描かれた大きな巻物状の古地図を、専門家の解説とともに慎重に確認している様子。



射水市博物館の学芸員により、発祥の地を特定している

古地図の区画と現在の地名・位置関係を照らし合わせ、商船学校が実際にどの場所に存在していたのか、学芸員さんの指し示す先で歴史が繋がる瞬間です。



新湊中学校（旧奈古中学校）の校門付近に鎮座する創立 100 周年記念碑

「新湊町立甲種商船学校発祥の地」と刻まれた石碑。富山商船高等専門学校の創立 100 周年を記念して建てられた、地域の教育史を物語るシンボルです。記念碑の側面には、奈古中学校の校歌や沿革が刻まれています。かつてこの地が、海の男たちを育てる学び舎であったことを今に伝えています。

鳥羽商船高等専門学校

◆令和7年度専攻科海事システム学専攻入学式を 挙行了しました。

鳥羽商船高等専門学校は、令和7年10月1日（水）に令和7年度専攻科海事システム学専攻の入学式を挙行了しました。本年度の入学者は3名で、いずれも本校商船学科で学び、これまでに培った知識や技術をさらに深めるために進学しました。

式では、まず古山雄一校長より専攻科入学の許可が宣言され、続いて式辞が述べられました。古山校長は、「進学された皆様は、我が国の将来を担う人材として、社会および産業界から大きな期待が寄せられています。そのことを心に留め、専攻科においては学問をさらに探究し、最新かつ高度な理工学の知識と技術を修得してください。そして、創造力・協調性・リーダーシップを兼ね備えた逞しき人間として成長されることを願っています」と新入生に言葉を贈りました。

また、入学生代表は「これから始まる2年間の専攻科において、これまでの学びをさらに発展させ、日本の貿易を大きく支える海運業の重要性を深く理解し、その力を養いたいと考えています」と入学の抱負を述べました。



◆オープンキャンパス 2025 を実施しました。

令和7年10月11日（土）に本校にてオープンキャンパスを実施しました。延べ232名にご参加いただき、7・8月開催の参加者と合わせると今年度は956名の参加者数となりました。今年度は最初の学校紹介・全体説明から、商船学科希望者はメディアホール、情報機械システム工学科希望者はマルチラボに分かれ、各学科の説明会・体験講座・施設見学等を行いました。商船学科では鳥羽丸体験乗船・操船シミュレーター・鳥羽丸入出港時遠隔映像見学、情報機械システム工学科ではロボコン機能及び卒業研究の展示・プログラミング・機械学習という体験講座を行いました。学科別の説明会終了後は、希望者を対象に学寮説明会、潮騒会館食堂にて学食体験を実施しました。

参加者からは、「船に乗ることが出来て大変貴重な経験になりました。」「船やエンジンの音がすごく大きくて迫力があって楽しかった。」「ロボコンに興味がある。」「実際にAIを使う体験ができて、よい経験になりました」など、両学科とも好評なご意見をいただき、鳥羽商船高専を知っていただく良い機会となりました。たくさんのお申込・ご参加をいただきありがとうございました。





◆三重県防災対策部による練習船鳥羽丸の視察・意見交換が実施されました。

令和7年10月10日(金)、三重県防災対策部が鳥羽商船高等専門学校の練習船鳥羽丸を視察し、本校の教職員と意見交換を行いました。

三重県では、能登半島地震への支援活動を通して得られた知見をもとに、南海トラフ地震への備えを強化しています。今回の視察は、その一環として実施されたものです。

視察ではまず、練習船鳥羽丸や防災備品が保管されている倉庫をご覧いただき、防災対策・災害支援に関する備品の現状を共有しました。続いて船内を案内し、練習船鳥羽丸が備える災害支援機能について説明しました。

意見交換の場では、今後の具体的な対策や連携体制について活発な意見が交わされました。

古山雄一校長は「陸上での支援が難しい場合には、練習船鳥羽丸を積極的に活用してほしい。いざというときに本校が主体的に災害支援に取り組めるよう、三重県と協力して体制を整えていきたい」と述べました。

これに対し、三重県防災対策部からは「能登半島地震では海からの支援が大きな役割を果たした。三重県でも海上からの支援を視野に入れ、訓練を実施したいと考えている。ぜひ鳥羽商船高専にも参加してほしい」との要望が寄せられました。

本校は今後も、地域と連携しながら、防災・減災に貢献できる体制を整えてまいります。



◆第 60 回海学祭を開催しました。

鳥羽商船高等専門学校は、令和 7 年 12 月 6 日(土)および 7 日(日)に「第 60 回海学祭」を開催しました。

海学祭は本校の文化祭で、学生で構成される学生会と海学祭実行委員が中心となって、イベント、ステージ企画、模擬店、展示などを企画・運営しています。

今回の海学祭は、60 回目の節目を迎える記念の年でした。テーマは「\$ailing」で、船出や挑戦、未来への旅立ちを象徴しています。創基 150 周年を迎えた本校が、伝統を大切にしながら新たな航路へ踏み出す姿勢を表現したものです。また、「\$ailing」の“\$”には、学生が積み重ねてきた経験を“価値”として示す意味も込められています。

両日とも天候に恵まれ、構内は多くの来場者でにぎわいました。ステージでは日頃の活動成果を披露する発表が行われ、模擬店では学生の工夫が光る商品が提供されました。情報機械システム工学科の学生が制作した注文・受け渡しシステムを導入した店舗もあり、本校らしさが感じられる企画が多数見られました。また、来場者参加型のイベントも複数実施され、家族連れやグループで楽しむ姿が多く見られました。

さらに、今年 3 月に竣工した練習船「鳥羽丸」による体験乗船・一般公開および企画展示も行われました。これらは本校学生団体「Tobamaru Project Team」が企画したもので、練習船の機能や魅力を知っていただく貴重な機会となり、多くの方にご参加いただきました。

第 60 回という節目の海学祭は、学生の主体的な取り組みと地域の皆さまの温かいご支援により、盛況のうちに終了しました。開催にあたりご支援・ご協力いただいた皆さま、ならびにご来場いただいた皆さまに心より御礼申し上げます。



◆練習船鳥羽丸が実働防災訓練に参加しました。

鳥羽商船高等専門学校（以下「鳥羽商船高専」）の練習船「鳥羽丸」は、令和8年2月15日、三重県四日市市の四日市港で実施された伊勢湾BCP協議会*・四日市港BCP協議会**および三重県主催の実働防災訓練に参加しました。

南海トラフ地震等の大規模災害に備え、海上からの支援体制の強化が求められる中、令和7年3月に竣工した練習船「鳥羽丸」は、航海士・機関士の育成に加え、災害時の支援船としての機能を備えています。本校は地域と連携した防災・減災の取り組みの一環として本訓練に参加しました。

訓練では、船内に災害対策本部を設置し、学生ホールや事務室、操舵室を活用した「洋上対策本部」としての運用を確認しました。また、四日市海上保安部の巡視艇「あおたき」と連携し、伸縮クレーンを用いた緊急物資輸送訓練を実施しました。

訓練後の講評では、国土交通省中部地方整備局副局長が「実働訓練を実施したことで課題が明確になった。今後の訓練に活かし、備えを大切にしていきたい」と述べました。また、一見勝之三重県知事は「南海トラフ地震が発生した場合、三重県では道路の通行が制限される恐れがあり、海路による支援は重要な支援策の一つである。日頃から関係機関が連携し、備えていきたい」と述べました。

練習船「鳥羽丸」の齊心俊憲船長は、「練習船鳥羽丸に装備した支援艇や交通艇、ドローンを使った被災状況の調査、物資輸送、人員移送等、代船建造の段階から検討してきた災害支援装備が、計画どおり能力を発揮することを確認できた。また、災害時船舶型携帯電話基地局、給水、給電に加え、入浴や洗濯といった避難生活を支える場としての活用も練習船鳥羽丸の強みになるだろうと考えられる。今後も定期的に訓練に参加し、知識と技量の向上を図りながら、関係機関との連携を強め、より一層円滑な支援ができるよう体制を整えていきたい」と述べました。

山野武彦機関長は、「今回の訓練を通じて、連携機関や各船舶の強みを知ることができた。それぞれの特性を理解したうえで、練習船『鳥羽丸』の強みを最大限に活かせるよう、設備の充実と訓練を重ねていきたい」と話しました。

さらに、訓練後に一見知事と懇談した古山雄一

校長は、「三重県には伊勢湾に属する多くの関係機関があり、その一員として練習船『鳥羽丸』も存在している。災害時には支援船としてぜひ活用していただきたい」と話しました。

本校は今後も、練習船「鳥羽丸」の教育機能と災害支援機能を両立させながら、関係機関との連携を一層強化し、地域の安全・安心の確保に貢献してまいります。

*伊勢湾BCP=伊勢湾港湾機能継続計画

**四日市港BCP=港湾機能継続計画





◆米国領事館首席領事が本校を視察しました。

令和8年2月20日（金）、在名古屋米国領事館のアンナ・ワン首席領事が鳥羽商船高等専門学校を訪れ、本校の技術教育の取組や練習船「鳥羽丸」を視察し、意見交換を行いました。

今回の視察と意見交換は、日米間の教育や技術交流の発展を目指して実施されたものです。

当日は、練習船「鳥羽丸」の見学のほか、学生によるAI・IoT技術を活用した取組事例、本校の国際交流の現状について紹介を行いました。その後、国際的な人材育成や技術協力の可能性などについて、本校教員と意見交換が行われました。

古山校長は「本校は創基150年を迎えた伝統ある学校です。また、去年は新しい練習船『鳥羽丸』が竣工し、最先端の技術を多く取り入れました。デジタル分野においても、本校の学生たちによって優れた技術が生み出されており、実社会でも活用できるものです。ぜひご覧ください」と挨拶しました。

視察と意見交換の後、ワン首席領事は「学生の発表は素晴らしい内容でした。ぜひ今後も頑張ってください。米国としても、日米間における造船やデジタルといった分野での人材交流や技術協力に力を入れていきたいと考えています。今回の意見交換をきっかけに、御校とのつながりをより一層強めることができればうれしく思います」等と述べました。

また、江崎副校長は「米国で学びたいという学生や教員は多くいます。機会があれば、ぜひ人材交流や技術協力に組みたい」と述べました。

本校は、今回の訪問を契機として、今後も国際的な教育・研究交流を推進し、グローバルに活躍できる技術者の育成に取り組んでまいります。





(商船学科航海コース 齊心 俊憲 記)



2026年2月15日（日）、伊勢湾BCP協議会・四日市港BCP協議会・三重県が合同で実施した実働防災訓練において、鳥羽商船高等専門学校の練習船「鳥羽丸」は、海上支援の中核として重要な役割を果たした。今回の訓練は、大規模地震による港湾機能の低下を想定し、海上輸送ルートの確保や緊急物資搬送を検証するものである。鳥羽丸は、災害時の代替輸送手段としての即応性と実運用能力を示し、参加機関から高い評価を受けた。

物資輸送訓練では、陸上交通が寸断された状況を想定し、鳥羽丸が救援物資を被災想定港へ輸送した。限られた接岸環境下でも、乗組員等が連携した精確な操船と迅速な荷役準備が行われ、練習船の教育成果が確かな形で発揮された。

また、本訓練では、一見勝之三重県知事や県職員と懇談し、鳥羽丸に設置された医務室の活用に向けて三重大学との連携も検討していることを、コンソーシアムみえにおいて提言している旨を伝えた。今回の訓練を通じ、鳥羽丸は教育機関の枠を超え、地域の防災力を支える実働的な存在であることを示すことができた。

2026年3月19日（木）、鳥羽商船高等専門学校第2体育館において、情報機械システム工学科の第3回卒業証書授与式および専攻科生産システム工学専攻の第20回修了証書授与式が挙行された。

式典には多くの保護者や来賓が参列し、厳粛かつ温かな雰囲気の中で、情報機械システム工学科83名、専攻科8名がそれぞれ新たな門出を迎えた。

式辞では、それぞれ5年間及び2年間の専門教育で培った実践的技術者としての成長をたたえ、とともに、近年相次ぐ自然災害への備えの重要性、そして国際情勢の変動にも向き合う広い視野を持つことが強調された。特に昨年度就航した新練習船「鳥羽丸」が、防災訓練や地域振興で果たした役割も紹介され、実学を重視する本校教育の象徴として言及された。



また、令和7年度から始まった情報機械システム工学科の20名の定員増と2コース制など、教育

改革の進展にも触れ、社会の急速なデジタル化の中で卒業生が活躍する期待が述べられた。式辞の結びでは、これまでの努力への称賛とともに、人生100年時代を力強く歩んでほしいとの激励が送られた。

（鳥羽商船高等専門学校長 古山 雄一 記）

鳥羽商船同窓会だより

春暖の候 皆様いかがお過ごしでしょうか。

令和 7 年度は、母校創基 150 周年、同窓会設立 100 周年、鳥羽丸の竣工と 3 大慶事の催事が無事終了しました。同窓の皆様には多大なご寄付を賜り誠に感謝申し上げます。

ありがとうございました。

最新の機器を備えた新鳥羽丸では、昨年 4 月から母校学生達が勉学と実習に励んでいます。船内の居住区も先代に比べ、格段に広く生活しやすくなり大変喜んでいます。

災害支援船としての機能も備えており、今年 2 月の三重県総合防災訓練では災害支援本部船として活用され、県民の皆様に広く知られたと思います。

また、2 月 14 日(土)には同窓生へのお披露目として『同窓会鳥羽丸体験航海』を実施し、同窓生 24 名とご家族の計 33 名が新鳥羽丸に乗船し中部国際空港セントレア往復 5 時間の楽しいひと時を過ごしました。



3 月 19 日(木)、母校に於いて情報機械システム工学科 83 名と専攻科生産システム工学専攻 8 名が卒業しました。入学時はコロナが収束前で入学式は本人と親族、限られた教官だけの寂しい式であったそうです。コロナ禍を知る最後の学生達でありました。

卒業学生達の進路は本科就職 67 名、進学 16 名、専攻科就職 7 名、進学 1 名です。

大空に飛ばたく若鷹たちに力強いエールを。



令和 7 年度に文科省 IT 人材教育強化策の一環で全国高専の指定された 4 校の内の 1 校に選ばれ、定員が 80 名から 100 名に増員されたのに伴い、校舎の増改築が令和 8 年度から開始されます。

今年度の母校商船学科の入学志望者数は近年にない競争率でした。

情報機械システム工学科は、少子化の中で定員割れが相次ぐ県立高校に比して、定員が増えたにも拘わらず、母校は健闘しています。

同窓会員皆様のご活躍とご家族一同の健康を祈願いたします。

同窓会事務局長 江崎隆夫

広島商船高等専門学校

○呉～広島体験航海「練習船「広島丸」に乗って海の仕事を体験しよう！」開催

令和7年11月29日(土)から30日(日)にかけて、本校の練習船「広島丸」を活用した乗船体験イベントを開催しました。対象は小学校5年生から中学校3年生までの児童・生徒で、当日は23名が参加し、船内での宿泊を含む充実した二日間となりました。

航海中には救命訓練や操舵体験、船についての講義が行われ、参加者は普段触れることのない海の世界を体感しました。大崎上島に到着後は本校教室で操船シミュレーターを使った模擬操船や、ロープワークの一つであるモンキーフィスト（キーホルダー）作りに挑戦。本校学生たちの丁寧な指導を受けながら、参加者は楽しそうに取り組んでいました。夕方には広島丸に戻り、船内でカレーの夕食をとった後、入浴を済ませ、夜間プログラムとして本校学生たちとの交流会を実施。大人数で楽しめるレクリエーションを行い、夜の広島丸の甲板に楽しそうな声が響き渡っていました。

二日間を通して、参加者はさまざまな体験を重ねる中で、はじめは緊張していた表情が次第にほぐれ、イベントや本校学生たちとの交流を通じてどんどん笑顔が増えていったことが印象的でした。今回のイベントを通じて、参加者から「実際に船を操縦できて感動した」「海の上で働くことについてより興味を持った」「広島商船高専に行ってみたくなった」といった声が寄せられ、将来の進路や職業選択に新たな可能性を感じてもらうことができました。



○ヒロマツホールディングス presents TGC 広島2025 のケータリング及び関連イベントでオレンジジェットを配布

令和7年12月6日(土)、本校の流通情報工学科の学生4名が、島の規格外みかんを使って作ったオレンジジェット（みかんの皮をチョコレートでコーティングした菓子）をTGC 広島2025のケータリングとウェルカムクリスマスイベント（広島シャレオで開催）で配布しました。当日のTGC 広島2025は大盛況で、多くのお客さまが来場されていました。

当日に向けて、学生たちは手分けをしながら約1か月にわたり試行錯誤を重ね、準備に取り組んできました。ケータリングでは、TGCの出演者の皆さまに学生たちが直接オレンジジェットを手渡すことができ、感動していました。

さらに、何人かの出演者の方が、ご自身のInstagramにオレンジジェットを載せてくださるという嬉しい出来事もありました。

本校は、今後も学生の主体的な学びや挑戦をサポートしていきます。



○卒業証書・修了証書授与式を挙

令和8年3月7日(土) 電子制御工学科・流通情報工学科卒業式、産業システム工学専攻修了式を挙

行しました。
(電子制御工学科36名、流通情報工学科41名、産業システム工学専攻2名)

逸見校長の手から、卒業生・修了生一人ひとりに証書授与が行われました。校長式辞では、校長自身の失敗談を通じ、「一所懸命に生きること。誠実に生きること。人の気持ちを考えて行動すること」の三つの教訓をお話しされました。

在校生代表からは商船祭やクラスマッチなどの思い出を振り返り、別れを惜しむ送辞がありました。

春の気配を感じられるこの頃、大きく育った学生たちは保護者・教職員に見送られ、本校を巣立っていきました。



○新広島丸起工式を挙

行
令和8年3月11日(水)、住友重機械マリンエンジニアリング株式会社(神奈川県横須賀市)において、練習船広島丸起工式が挙



(商船学科 大内 一弘)

【2026 年総会のご案内】

日時：5 月 23 日（第 4 土曜日）

総会 / 13：45～16：45

懇親会 / 17：00～19：00

場所：ピュアリティまきび

多数の皆様の参加をお待ちしています。

詳細は校友会ホームページに掲載しています。

よろしくお願いします。

【大崎上島町のふるさと納税で広島商船高専を応援しませんか】

大崎上島町ふるさと納税における寄附目的として、「広島商船高専活性化支援」が設定されています。広島商船高専における人材育成や、大崎上島の地域課題解決につながる優れた取組みを応援するため、皆さまの温かいご支援をお願いいたします。ふるさと納税サイトにて大崎上島町の返礼品をお選びいただき（※大崎上島町以外にお住まいの方が対象）、寄附目的として「広島商船高専活性化支援」を選択するだけで、寄附金が広島商船高専の支援に充てられます。

学校では、いただいた寄附金を目的に沿った事業に活用させていただきます。

○大崎上島町ふるさと納税のご案内

https://www.town.osakikamijima.hiroshima.jp/soshiki/somu/5/1_1/1282.html

※校友会ホームページにも案内を掲載しています。

広島商船高等専門学校 校友会

月金 9:00～15:00

TEL 0846-65-3899

Mail : koyukai@hiroshima-cmt.ac.jp



大島商船高等専門学校

○商船祭とオープンキャンパスの同時開催

令和7年11月1日（土）、第56回商船祭を開催しました。荒天に見舞われた昨年とは一転、今年は秋晴れの下で伝統の手旗おどりや大島丸の一般公開を行い、地域の方々や保護者など多くの来場者で賑わいました。

当日は中学生対象のオープンキャンパスも同時開催し、入試説明や研究室公開を実施しました。活気ある学生の姿を間近に届けることで、中学生が入学後の学生生活を具体的にイメージできる良い機会となりました。



商船祭 手旗おどりの様子



商船祭 ステージイベントの様子

○キャリア教育フォーラム開催

令和7年11月3日（月）、本校第一体育館にて「大島商船高専生のためのキャリア教育フォーラム」を開催しました。本科3・4年生および専攻科1年生を対象とした今回は、多岐にわたる業界から計102社のご出展をいただきました。

会場では、学生たちが熱心に各ブースを回り、企業の担当者や本校卒業生から現場の生の声を聞く姿が見られ、非常に充実した時間となりました。学びの先にある将来を具体的に描き、キャリア形成への意識を高める貴重な機会となりました。



キャリア教育フォーラムの様子

○海事キャリア教育セミナー開催

令和7年11月6日（木）、商船学科1・2年生を対象に「海事キャリア教育セミナー」を実施しました。海技教育機構から講師をお招きし、海技士の魅力や学生時代に励むべきことについてご講演いただきました。

船の仕事の奥深さや、プロの航海士を目指すための心構えなどについて熱心な質疑応答が行われ、低学年のうちから将来のキャリアを主体的に描くための貴重な一歩となりました。

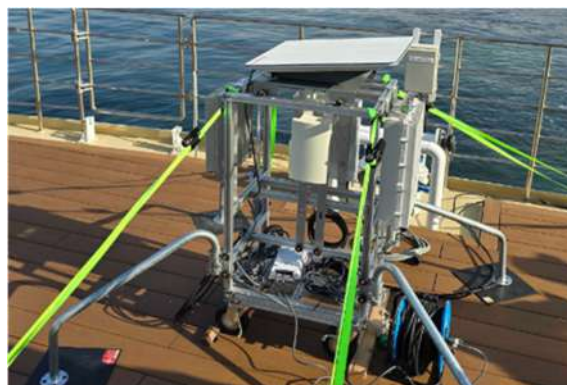


海事キャリア教育セミナーの様子

○NTT ドコモと連携し、練習船「大島丸」での船上基地局設営訓練を実施

令和 7 年 12 月 2 日（火）、株式会社 NTT ドコモ中国支社と、災害時の通信復旧を想定した共同訓練を実施しました。南海トラフ地震等の大規模災害に備え、練習船「大島丸」を船上基地局として活用するための訓練です。

当日はスターリンクの設営や固縛方法の確認、海上での通信状況の検証などが行われました。本校の資源を地域の防災に役立てるための実戦的な取り組みとなりました。



船上基地局の構成機器

○コンピュータ部が「Giving Campaign 2025」で企業賞を受賞

令和 7 年 12 月 14 日（日）、北九州市で開催された交流イベント「Kyushu Connect」にて、本校コンピュータ部が GMO インターネット賞を受賞しました。

この賞は「最新テクノロジーの可能性を信じ続け、成長を続ける団体」に贈られるもので、部員たちの革新的な取り組みが評価されました。



企業賞「GMO インターネット賞」を授与されるコンピュータ部の学生

○ベトナム開催の国際プロコンにコンピュータ部の学生が参加

令和 8 年 3 月 8 日（日）・9 日（月）、ベトナムのハノイ国家大学にて「NAPROCK 第 17 回国際プログラミングコンテスト」が開催されました。

本大会には、昨年 10 月に開催された全国高等専門学校プログラミングコンテストの課題部門と競技部門で優秀な成績を残したチームが招待され、本校からは課題部門出場チームが『KOKEMEME』というタイトルで出場しました。

審査ではプレゼンテーションおよびデモンストレーションがすべて英語で行われました。学生たちにとっては初めての英語発表でしたが、入念な準備と練習を積み重ねて本番に臨み、無事に大役を果たしました。



国際プロコンでの発表の様子

（商船学科 松村 哲太 記）

大 島 商 船 同 窓 会

＜高専 45 期 商船学科クラス会開催＞

令和 7 年 11 月 23 日、KKR ホテル博多にて高専 45 期（商船学科）のクラス会を開催しました。卒業からちょうど 10 年の節目となる今回は、10 年ぶりに再会するクラスメイトも多く、近況を報告し合いながら当時の思い出を懐かしむ、和やかで温かい会となりました。当日は同窓生 24 名に加え、当時お世話になった教職員 3 名にもご参加いただきました。特に、5 年次担任であった久保田先生からご挨拶を頂戴し、学生時代のエピソードを交えたお話に会場が一層盛り上がりしました。今回の開催にあたっては、新たに設けられたクラス会・期別会支援制度を活用し、同窓会から支援を受けることができました。この制度のおかげで、教員の先生方にもこれまで以上に声をかけやすくなり、より多くの方に参加いただくきっかけとなりました。同窓会の皆様には、貴重なご支援を賜り心より感謝申し上げます。最後には、「また 10 年後などの節目に再び集まろう」と参加者全員で再会を誓い、盛況のうちに閉会しました。



高専 45 期 商船学科クラス会の開催

＜2026 年 京浜小松会事務局新年会実施＞

昨年実施した京浜小松会総会・懇親会の反省会も兼ねて、2026 年 2 月 11 日に川崎にて、事務局メンバー 9 名による新年会を実施致しました。新年度の予定として、第 43 回 横浜港カッターレース大会への参加および 2026 年度京浜小松会総会・同窓会開催の検討を行いました。



京浜小松会事務局新年会

＜小松会周南支部総会懇親会の開催＞

令和 8 年 2 月 14 日、周南市逸品の「ともなが」にて周南支部の総会と懇親会を開催しました。バレンタインデーの夜にも関わらず、9 名が参加しました。岩本新会長の挨拶に始まり、年長者は N68 の山本さん、年少者は N103 の松本さんまで幅広い年齢層が集まりました。



小松会周南支部 総会および懇親会

<第 43 回 横浜港カッターレース開催予定>

2026/5/24(日)、横浜市山下公園にて横浜港カッターレースが開催されます。今年も 2 艇以上の出艇を目指して漕ぎ手を募集しておりますのでご興味のある方は大島商船高専同窓会 京浜支部または、本部までご連絡ください。

<2026 年度 大島商船高専同窓会活動予定について>

本年度、下記の通り活動を予定しております。関係各位におかれましてはご予定いただけますようお願い申し上げます。



■ 2026 年度 同窓会活動予定（現時点）

4 月 5 日 入学式

6 月中旬 会計監査（会計担当）

9 月 17 日 慰霊祭、同窓会理事会・総会（学校）
懇親会（柳井クルーズホテル予定）

9 月 18 日 商船学科 卒業式（各支部会長へご案内）

3 月 19 日 電子機械工学科・情報工学科 卒業式（学校近隣支部会長へご案内）

※ 詳細につきましては必要に応じてご案内させていただきます。



<同窓会名簿発行および賛助広告のお願い>

来年度は、本校創立 130 周年を迎える節目の年となります。これを記念し、同窓会では同窓会名簿の発行を予定しております。皆様のもとへ年会費納入のご案内をお送りする予定でございますので、誠に恐れ入りますが、所定の年会費につきましてご納入くださいますようお願い申し上げます。また、同窓会名簿への賛助広告掲載につきましても、皆様のご協力をお願い申し上げます。広告のお申し込み方法等の詳細につきましては、添付の「賛助広告募集要項（申込書）」をご参照ください。ご多用のところ誠に恐縮ではございますが、本趣旨をご理解のうえ、何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(募集要項のダウンロードリンク)

弓削商船高等専門学校

○女性の心身の健康に関する講演会実施

令和7年11月6日（木）、女性の心身の健康に関する講演会「おとなになるまでに知っておきたい女性のカラダと健康のこと」をライブ配信で実施しました。1年生120名と教職員がアセンブリホールにおいて受講しました。この講演会は、思春期の健康教育推進プロジェクト『かがやきスクール』2025 オンライン授業として実施されているもので、自身が望む人生設計やキャリアプランを実現するため、女性特有の病気やライフステージの変化について正しく理解してもらうことを目的としています。

講師のみやはらレディースクリニック院長、産婦人科医の宮原 陽先生が、女性のカラダとホルモン、月経のトラブルと対処法、子宮の病気、正しい避妊、女性のがん、性感染症等について、幅広い内容をお話してくださいました。

講演後の質疑応答では、月経時に男性がどのように支援できるかという質問がありました。これに対し、講師からは「女性が信頼して伝えてくれていることを理解し、その気持ちを受け止めながら関わるのが大切である」との回答をいただきました。また、人工妊娠中絶に関する質問については、手続きや身体の変化など、具体的な知識を丁寧に説明していただきました。

女子学生から「すぐ内診されることはないみたいだから、辛さを我慢せずに産婦人科に行きたいと思った」、男子学生からは「将来パートナーになる人への対応を学ぶことができた」等の感想が聞かれました。女性の健康に関する理解を深めることで、意識啓発を図るための有意義な講演会となりました。



○モンゴル科学技術大学との国際交流を実施

令和7年10月29日（水）～11月13日（木）、国立モンゴル科学技術大学（以下、「MUST」という）の教職員・学生が来校し国際交流を実施しました。

この国際交流は本校とMUSTとの協定に基づき、学生支援機構（JASSO）の支援により実施しているもので、今回で5回目となります。コロナ禍によって国際交流を中止せざるを得ない時期もありましたが、MUSTとの不断の交流が実を結び、今回本校での受入プログラムを再開することができました。

滞在中は、本校電子機械工学科の研究室において、共同研究プロジェクトに取り組むほか、歓迎会、クラブ活動体験、商船祭参加、尾道、福山、広島方面への研修旅行を通じて、本校の教員、学生と交流を深めることができました。

11月2日（日）の歓迎会では、互いの学校紹介や自己紹介を通じて、和やかな国際交流のひとつとなりました。11月3日（月）の広島研修旅行は、本校の留学生の文化交流活動と併せて実施し、日本の文化や美しい風景を味わい、思い出深い研修旅行になりました。



○第22回全国高等専門学校デザインコンペティション「AMデザイン部門」で審査員特別賞を受賞

令和7年11月8日（土）・9日（日）、鯖江市嚮陽会館（福井県）において、第22回全国高等専門学校デザインコンペティション「でざこん2025 ふくい」が開催されました。本校からは、「AMデザイン部門」の本選へ2チームが出場しました。

「AMデザイン部門」は、3Dプリンタを用いて自由な発想と独創的なアイデアを競う部門であり、今回のメインテーマは”織りなす”でした。本部門には全国の高専から27チームがエントリーし、予選（書類審査）を通過した本校を含む9チームが本選に出場しました。

1日目は口頭発表と質疑応答、2日目はポスターセッションにより審査が実施されました。本校は、インテリアとしての照明器具と防災対策としてのヘルメットを融合したアイデア

「Lumet（ルーメット）」を考案し、見事に「審査員特別賞」を受賞しました。



○キャリア教育フォーラムを開催

令和7年11月29日（土）、本校第1体育館において、電子機械工学科と情報工学科の3年生・4年生、専攻科1年生の学生を対象としたキャリア教育フォーラムを開催しました。

学生は参加企業の説明に熱心に耳を傾けていました。参加した学生からは、「仕事の詳しい内容や魅力、求められることなどを知ることができ、進路を深く考える良い機会となった」などの感想がありました。



○株式会社アクセスネットによる出前授業（生成AI実践授業）を実施

令和7年12月4日（木）、本校アセンブリホールにおいて、情報工学科4年生、5年生を対象とした、（株）アクセスネットによる出前授業を実施し、学生及び教職員約70名が参加しました。

本授業では「生成AI実践授業」というテーマで、生成AIの種類・原理、LLM（大規模言語モデル）、プロンプトの基本、個人情報や機密情報の取り扱い、著作権など、生成AIの基礎につ

いて幅広く学びました。ハンズオンでは、AI チャットボット等を利用して、プロンプトの作り方や注意点を体験しながら学びました。

学生達にとっては、近年身近になった生成 AI について専門家から学べた貴重な体験となりました。出前授業後のアンケートでは、「AI について学ぶことが少ないので改めて使い方を学べてよかった。知らない AI や使い方があって講義を聞いてよかった」「自分の知らなかった生成 AI が多くあり、これからの学校生活で活かしていけそうなものが多くあった。とても勉強になった授業と感じた」「AI に頼りすぎるのはよくないけど、AI をどんどん使っていくのは大切なんだなと思った。AI の発展がこんなにもしているんだということに驚いた」など、多くの学生から満足度の高い回答がありました。



○ブックハンティングを実施

本校図書館は、令和7年12月6日（土）、広島市の書店「MARUZEN 広島店」において、令和7年度ブックハンティングを実施しました。参加者は学生22名、教職員2名の計24名で、

一人あたり10,000円を上限として、図書館に設置する本の選定にあたりました。参加者は約1200坪の広い店内の約120万冊の本の中から、真剣な眼差しで図書館に入れる本を選んでいました。

選定された本は揃い次第、図書館閲覧室のブックハンティング特設コーナーにおいて設置される予定です。



○第23回キャンパスベンチャーグランプリ四国で優秀賞を受賞

令和7年12月10日（水）、香川県高松市のリーガホテルゼスト高松において、「第23回キャンパスベンチャーグランプリ(以下、CVG 四国)四国審査会・表彰式」が開催され、石橋治樹さん(情報工学科4年)、小田紘平さん(同3年)、久保竜壮さん(同3年)、濱田捷聖さん(同2年)、佐藤智道さん(同1年)のグループが準優勝にあたる優秀賞(四国経済産業局長賞)を受賞しました。

CVG 四国は、四国地区の大学・高専等の学生がベンチャービジネスのアイデア・事業プランを競い合うコンテストで、応募した42グループの中から8グループが最終審査会まで通過し、最終審査では、プレゼンテーションと質疑応答による審査が行われました。

今回受賞した学生は「KiWi・Keep Info With Integrity」というテーマで、スマートフォン上で動作する暗号化技術とセキュリティ技術を活用した、個人情報請求システムのビジネスプランを考案しました。公的機関や医療機関など情報管理が厳しい場所でも、個人情報の請求や提供をスマートフォン1台で簡単に行えるようになるソリューションです。令和8年度の実用化

を目指して、今後もシステムやビジネスプランを改善する予定です。



○海技士筆記試験1級合格者表彰式を実施

令和7年12月17日(水)、海技士筆記試験1級合格者の表彰式を執り行いました。

本校では、海技士筆記試験1級に合格した学生の努力と成果を称えるため、表彰制度を設けています。

今回、表彰を受けたのは、山本磨寛さん（商船学科5年機関コース）、小野田颯天さん（同3年機関コース）の2名です。両名は、学業と実習を両立しながら高度な専門知識と技能を身につけ、見事に合格しました。

式では、内田校長から一人一人に対して表彰状と記念品を授与するとともに、日頃の研鑽を称える言葉が贈られました。本校としても、このような成果は大変喜ばしく、在校生にとって大きな励みとなるものです。今後のさらなる活躍を心より期待しています。



○海事キャリア教育セミナーを実施

令和7年12月18日（木）、商船学科1年生・2年生を対象に「海事キャリア教育セミナー」を実施しました。

本セミナーは全国の商船系高等専門学校が連携して実施している「次世代の海洋人材の育成に関する取組」の一環として実施され、本校には全日本海員組合から3名が来校しご講演いただきました。

講演では、全日本海員組合 土屋文平氏から、外航船員を取り巻く現状と人材育成の重要性について説明があり、続いて、商船高専出身の現役外航船員、無関健一朗氏（商船三井・一等航海士）・牧野綜太氏（NYK Energy Ocean・二等機関士）が、自身の経歴、担当船種、船上での業務内容や職場環境、船内生活について具体的に分かりやすく説明してくださいました。

AhaSlidesを活用した質疑応答では、スマートフォンを用いて全参加者が回答・質問できる形で実施され、多数の質問が飛び交い盛り上がる場面もありました。また、学生が抱いていた不安や疑問を具体的に解消する機会となり、進路や学習に対して前向きに考える姿勢も見られ大変有意義なセミナーとなりました。





○起業家による特別講演を実施

令和8年1月13日(火)、SMZ株式会社 代表取締役 清水正輝氏を講師に迎え、起業家教育に関する特別講演を実施しました。本講演は、令和7年度 起業家教育プログラム実施支援校として本校が採択され、独立行政法人 中小企業基盤整備機構の支援のもと、学生にアントレプレナーシップ（起業家精神）を育成する取り組みの一環として実現したものです。

当日は、情報工学科1年生及び電子機械工学科1年生の約80名が参加しました。講演では、講師自身の起業に至るまでの経緯や、SMZ株式会社の立ち上げにおける実体験が紹介され、起業の魅力や困難、意思決定の重要性などについて具体的なお話がありました。また、レビューセッションも行われ、事前に学生たちがグループごとに作成したビジネスプランシートに対して、起業家の視点から助言や改善点など講師による直接のレビューを受けました。

受講した学生たちにとって、本講演は、将来の進路選択やものづくりへの意識を高める貴重な学びの機会となりました。



○白砂寮テーブルマナー講習を開催

令和8年1月23日(金)、本校食堂において、コンパスグループ・ジャパン株式会社の金子氏を講師に迎え5年生・専攻科2年生を対象としたテーブルマナー講習を開催しました。このテーブルマナー講習は、本校では初めての企画です。

講習では、公的・私的のさまざまな場面を想定しながら、主賓に合わせる姿勢や、場の調和を大切にすることの重要性について分かりやすく教えていただきました。実際にコース料理を味わいながら、学んだマナーをその場で実践できたことで、学生たちはより理解を深めることができました。講習終了後には、講師へ個別に質問をする学生の姿もみられ、積極的に学ぶ姿勢が印象的でした。



○令和7年度電子機械工学科・情報工学科卒業式及び専攻科（生産システム工学専攻）修了式を挙行

令和8年3月13日(金)、令和7年度弓削商船高等専門学校電子機械工学科・情報工学科卒業式及び専攻科（生産システム工学専攻）修了式を挙行し、電子機械工学科卒業生40名、情報工学科卒業生38名及び専攻科（生産システム工学専攻）修了生10名に卒業証書・修了証書が授与されました。

内田校長から「卒業生・修了生の皆さん、これから歩む道が容易であるとは限りません。しかし、容易でないからこそ、皆さんの力が必要とされています。どうか胸を張り、前を見据え、学びの火を消さず、良識を携えて進んでください。困難に直面したときは、どうか母校・弓削商船高等専門学校を頼ってください。」と式辞が

述べられました。また来賓の上村俊之上島町長から祝辞をいただき、卒業生・修了生は引き締まった表情で聞き入っていました。

続いて、在校生総代の橋本亘輝さん（電子機械工学科3年）が送辞を述べた後、卒業生総代の村上絢音さん（電子機械工学科）から力強い答辞が述べられました。

多数の来賓、教職員そして保護者の皆様に見守られながら、卒業生・修了生たちは弓削商船高等専門学校での思い出を胸に、それぞれの夢を叶えるための第一歩を力強く踏み出しました。



(練習船弓削丸 森瑛太郎 記)

弓削商船高専同窓会

■令和7年度京浜地区忘年会を開催

11月28日(金)、パーティプラネット「銀座P Pサロン」にて弓削商船同窓会京浜支部の忘年会を開催しました。年末のご多忙の中、N106 渡邊司様から N62 柏木実様（N65 渡部英利様）まで40名を超える同窓生にご参加いただき、閉会後には「盛会であった」とのお声を多数頂戴し、心温まる会となりましたのでご報告いたします。

冒頭、N62 柏木会長より母校に関するお話をいただき、特別ゲストとしてお招きした元教官堀富士男様の乾杯により開会いたしました。

歓談の中、N78 小宮直一様より天候により中止となった5月の「横浜港カッターレース」の報告、続いてN82 甲田博義様よりゴルフコンペ「しらすな会」の活動報告をいただきました。その後、堀内支部長ご寄付の「山崎12年」を景品としたジャンケン大会をN86 千葉健也様の進行で実施し、会場は大いに盛り上がり、M4 渡邊巖様が優勝されました。

続いて、柏木会長を中心に校歌斉唱、N65 渡部英利様による万歳三唱を行い、堀内支部長の挨拶をもって閉会いたしました。

また、堀元教官のもとには多くの同窓生が集まり、大変喜ばれる様子が印象的でした。急なご招待にもかかわらずご快諾いただき、心より御礼申し上げます。



■令和8年度高松支部新年会を開催

2026年1月17日(土)、高松支部の新年会を開催いたしましたので、当日の様子をご報告いたします。今回の新年会には、遠路遙々お越しいただいた柏木会長をはじめ、多くの諸先輩方、同期、そして後輩諸氏にご協力いただき、香川県内外より総勢38名が集う賑やかな会となりました。

会の中盤では、参加者全員による一言スピーチで近況を報告し合い、最後には全員で校歌を合唱するなど、母校への想いを一つに大いに盛り上がった大変楽しいひと時となりました。支部長を拝命してから初めての行事ということもあり、無事に開催できましたことを心より安堵しております。

また、今回の会合では「次世代への継承」を支部の最重要課題として再認識いたしました。参加者の最年少が還暦を迎えているという現状を受け、今後は若い世代への積極的な声掛けはもちろんのこと、InstagramなどのSNSも有効活用しながら、よりオープンで活気ある支部運営を目指してまいります。

高松支部はこれからも、世代を超えた交流の場として活動を続けてまいります。今後ともご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

高松支部長 濱野 利光



■令和8年度弓削支部新年会を開催

令和8年度弓削支部新年会が、寿司居酒屋「ととや」において開催され、9名が参加しました。新年の門出を祝うにふさわしく、終始和やかな雰囲気の中で会は進行しました。

冒頭では、E36 大峯氏より乾杯の挨拶があり、本会の開催を企画した原田弓削支部長に対し、感謝の意が述べられました。

その後の歓談では、近況報告や学生時代の思い出話が交わされる中、かつて本校学生が地域の消防団として活動し、出動していた当時のエピソードも話題に上りました。懐かしい話に花が咲き、世代を超えた交流を深める有意義な新年会となりました。



■同窓会事務局

電話(学校代表) 0897-77-4606

FAX 0897-77-4692

メール info@yuge-kosen.com

同窓会事務担当 田房 友典(12期)

海 技 教 育 機 構

● 乗船実習

【日本丸】

10月1日に高等専門学校4年生（第56期生）航海科91名が乗船し、5ヶ月の長期実習を行いました。神戸にて乗船し、東京、名古屋、長崎、鹿児島及び神戸と年内は、国内航海で訓練を積みました。年明にはシンガポールへの遠洋航海も経験しました。寄港地のシンガポールでは、Port Operations Control Centre（シンガポール港湾運用管理センター：POCC）やSingapore Maritime Academy（シンガポール海事アカデミー）の見学を通じて異文化に触れることで視野を広げ、国際人として求められるマナーを身に付けるとともに、英語学習への意欲も一層高めることができました。

3月1日に高等専門学校3年生（57期生）（鳥羽・広島・弓削）84名が乗船し、初めての乗船実習に臨んでいます。1ヶ月間の実習ですが、海上の厳しさと美しさを感じ、海技者としての基本を学んでくれることを祈っています。



【銀河丸】

10月7日に高等専門学校4年生（第57期生）機関科85名が乗船し、日本丸の航海科と同様に5ヶ月間の長期実習を行いました。神戸にて乗船し、別府、宇野、東京、横浜、名古屋などへ寄港しました。航海中には、機器の発停、保守、配管調査及びシリンダーカバー整備等をはじめとする様々な実習に取り組みました。

実習期間中には、船社による海運ガイダンスが船内で開催されました。また、多くの船社が一堂に会する海技者セミナーに参加する機会も設けられました。実習生は、海技者としての能力を身につけるだけでなく、海運業界に対する知見も深めることで、より真剣に海技者としての将来に向き合うことができたようです。

3月1日に高等専門学校3年生（57期生）（富山・大島・広島）97名が乗船し、初めての乗船実習に臨んでいます。1ヶ月間の実習ですが、神戸にて乗船し、大阪、横浜と国内の主要港に寄港し海技士としての基本を学びました。一人前の海技者をめざし学習や実習に励むことを願います。



● 令和8年4月から6月までの乗船実習予定

【大成丸】

- ・高等専門学校（航海）6年（2025/4/1 乗船）
4/3 神戸発、4/14～4/18 広島、
4/23～4/27 細島、5/2～5/7 鹿児島、
5/18～5/23 東京、5/29～6/2 横浜、
6/8 神戸着、6/10 下船

【青雲丸】

- ・高等専門学校（航海・機関）6年（2025/4/1 乗船）
4/4 神戸発、4/11～4/15 鹿児島、
4/24～4/28 門司、5/7～5/11 徳山、
5/21～5/25 大阪、5/30～6/3 東京、
6/8 神戸着、6/10 下船

【海王丸】

- ・高等専門学校（機関）6年（2025/4/1 乗船）
4/5 東京発、5/1～5/6 リッチモンド、
5/19～5/23 ホノルル、6/9 神戸着、6/10 下船

【JMETS 監修オリジナルカレンダー2027 写真募集】



● 海事広報

● 【SNS で最新情報発信中】



◀ご応募お待ちしております！



◇Facebook



◇X



◇Instagram



◇YouTube

今後とも JMETS へのご支援をよろしくお願い申し上げます。

本部・支部だより

(2025/12/11 ～ 2026/4/25)

- 2026/1/6 日本船主協会新年賀詞交歓会（広重）
- 2026/1/8 日本丸船長・機関長 来所
- 2026/1/13 海洋会新年賀詞交歓会（広重）
- 2026/1/23 千代田三信ビル理事会（徳嶋）
- 2026/1/30 国立高専における次世代の海洋人材育成に関する協議会（広重）
5 高専校長懇談会・懇親会（広重、中山、徳嶋、西山）
- 2026/2/5 第2回高専運営委員会（富山高専）（徳嶋）
- 2026/2/6 第7回高専海事教育フォーラム（徳嶋）
- 2026/2/10 JMETS交流会 海技大学校見学会（広重）
第43回横浜カッターレース実行委員会（徳嶋）
千代田三信ビル理事会（徳嶋）
- 2026/2/18 しんようクラブ（湊川神社・楠公会館）（広重）
- 2026/2/20 めいよう会（名古屋港水族館内アリバダ）（広重）
- 2026/2/26 海洋会 関根会長との面談（越中島キャンパス）（広重、中山、徳嶋、酒迎）
- 2026/3/6 海技教育財団理事会（広重）
- 2026/3/9 日本殉職船員顕彰会通常理事会（広重、徳嶋）
- 2026/3/11 広島丸起工式（住友重工追浜工場）（広重）
- 2026/3/12 日本海難防止協会通常理事会（広重）
- 2026/3/16 千代田三信ビル理事会（徳嶋）
- 2026/3/20 若潮丸竣工記念式典・祝賀式（富山高専・ホテルグランテラス富山）（広重、長谷川）
- 2026/3/24 日本殉職船員顕彰会評議委員会（徳嶋）
- 2026/3/26 帆船日本丸記念財団 第2回評議委員会（徳嶋）
- 2026/3/28 全船協 2025年度第3回理事会（和泉橋区民館）
- 2026/4/5 大島商船高専入学式（広重）
- 2026/4/16 海技振興センター HTW会議（徳嶋）
- 2026/4/25 全船協 2026年度第1回理事会（神保町区民館）

賛助会員名簿

2026年3月現在

賛助会員の方々にご支援とご協力をいただいております。（一社）全日本船舶職員協会

賛助会員名簿

2026年3月現在

株式会社オーシャンリンク	上野トランステック株式会社
日本栄船株式会社	協同商船株式会社
日本ガスライン株式会社	弓削商船高専同窓会
株式会社マリントランスシステム	広島商船高専校友会
大島商船高専同窓会	株式会社コトラスシステム
名古屋メッキ工業株式会社	神戸マリーナ工業株式会社
東海海運株式会社	栗林商船株式会社
かもめプロペラ株式会社	八馬汽船株式会社
株式会社商船三井内航	富山高専 北斗会事務局
大四マリン株式会社	戸田汽船株式会社
山友汽船株式会社	菅原汽船株式会社
株式会社B & S エンタープライズ	NSユナイテッド内航海運株式会社
太洋産業貿易株式会社	株式会社アイエスシー
日本フィールド&マリンエンジニアリング株式会社	名阪船舶株式会社
玉井商船株式会社	正栄汽船株式会社
鳥羽商船高専同窓会	北星海運株式会社
旭運輸株式会社	摂予汽船株式会社
日本油化工業株式会社	
有限会社ハマテクノサービス	兵機海運株式会社

2025 年度 正会員・準会員会費納入者芳名帳

2025 年 12 月 18 日～2026 年 4 月 17 日現在

12月
個人
岡部 圭祐
齊藤 勉
木村 公太郎
1月
渡邊 歩夢
大下 博弥
坂井 康寛
山口 弘記
藤中 満
2月
丁田 慎一郎
渡辺 拓弥
3月
吉良 翔馬
高田 忍
高鍋 隆典
小林 大
楠本 春太郎
花堂 太気
西村 経悟
4月
紙屋 雄大
鬼塚 珠明

2026年9月卒業予定

鳥羽商船
山上 皓右





船と人間の盾

前号で航海中突然戦争に巻き込まれたら本船はどのように行動するか？に付いて書きましたが、残念ながらそれが現実になってしまいました。2月末USAとイスラエルが仕掛けた戦争が始まり、ホルムズ海峡が事実上封鎖され、4月8日時点で800隻近い船舶がペルシャ湾内に足止めされているようです。船員の数は約2万人と言われ日本関係船は約45隻日本人船員も10数人止めおかれています。原油を含む石油関連品輸入の95%近くをホルムズ海峡通過船に依存する我が国は大騒ぎとなり、人質状態の船員の安否も伴って大変な事となっています。

国際航海に従事する商船は、紛争当事国籍で無い限り、どの海域でも自由に行き来できる筈で、「航行の自由の原則」は船乗りの基本中の基本です。”Freedom of navigation” かつこいい言葉だなと、学生時代英語が得意でなかった筆者でも覚えています。(あっ、すみません、話が逸れました)

ペルシャ湾は元来沖待ちが多い海域です。筆者も60日以上の上待ちを経験したことがあります。その時は単なる船込みでしたが、今の状況はミサイル、ドローンが上空を飛び交い、周りを軍艦が行き来する状況での待ち状態です。世界はこの戦争を一刻も早く解決に導かねばなりません。国連等外交だけに任せず、宗教界、金融・保険・その他全産業・全世界で何かできないでしょうか？

表紙写真「若潮丸」 富山高等専門学校

本船主要目 全長：56.48m 全幅：10.60m 総トン数：389トン
航海速力：12.50ノット 航海日数：5日 主機関：4サイクルディーゼルエンジン（過給機付）
最大搭載人員 乗組員9名、教員3名、学生48名、計60名
竣工日：2026年3月13日

編集後記

新年度を迎え、新しい環境での生活が始まった方も多い季節です。期待と同時に、不安や緊張を感じる場面も少なくありません。最初から完璧を目指すのではなく、少しずつ慣れていく過程を大切にすることが、長く続けるためのポイントになりそうです。また、周囲の支えやちょっとした声かけが、大きな安心につながることもあります。自分だけで抱え込まず、適度に頼ることも大切です。新しい一歩を踏み出すこの時期だからこそ、心と体のバランスを意識したいものです。(にしやま_記)

全船協 会報 161号 春季号

2026年5月発行

◇ 発行所：一般社団法人 全日本船舶職員協会 ◇ 編集兼発行人：徳嶋 明宏
本 部：〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町三丁目7番12号 清話会ビル2階B室
TEL 03-3230-2651 FAX 03-3230-2653
E-mail: honbu@zensenkyo.com URL: <https://www.zensenkyo.com>
神戸支部：〒650-0015 神戸市中央区多聞通二丁目1番1号 多聞プラムビル2階 山友汽船(株)内
TEL 078-958-6815 FAX 078-371-5520
E-mail: kobe@zensenkyo.com

宿泊・会議・宴会ご予約賜り中！

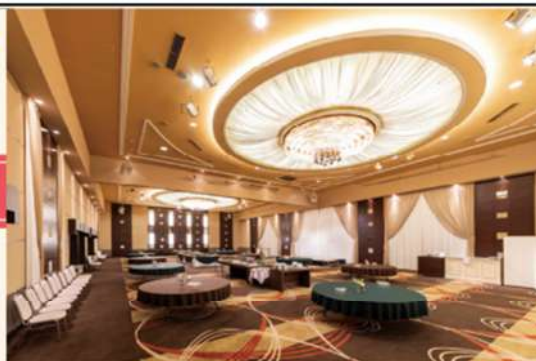
ご宿泊からご宴会・各種会合まで。
海事関係の皆様から船乗り達が集う憩いの場所として親しまれております。

海事関係のお客様は全日本海員組合の組合員のご紹介があれば
特別価格にてご利用いただけます。

HOTEL
Mariners' Court TOKYO

ホテルマリナーズコート東京

〒104-0053 東京都中央区晴海 4-7-28 TEL:03-5560-2521 mail: banquet@hotel-mariners.co.jp



Marine Trans System Co., Ltd.

株式会社マリントランスシステム

代表取締役社長 小林 悠

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号

セントラルビル2階 (fabbitt内)

電話 050-3187-3610(代) FAX 03-6629-6290

社会の重要インフラや物流事業をサポートし、持続可能な未来の創造に貢献する
Contributing to a sustainable future



**日本フィールド&マリン
エンジニアリング株式会社**
Japan Field&Marine Engineering



電気・機械・冷熱・計装事業を中心とした技術サービスを提供しています。

本社	神奈川県横浜市西区岡野二丁目8番13号	神戸事業所	兵庫県神戸市兵庫区西出町一丁目2番3号
	TEL: 045-290-6085		TEL: 078-651-2727
横浜事業所	神奈川県横浜市神奈川区守屋町一丁目2番2号	神戸・北・2ビル	兵庫県神戸市中央区元町六丁目1番8号東栄ビル6階
	TEL: 045-461-6971		TEL: 050-3662-6158
計装事業本部	神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央三丁目4番36号	長崎事業所	長崎県長崎市井天町1番11号
	TEL: 050-3662-6153		TEL: 050-3662-6169



伊勢三河湾水先区水先人会

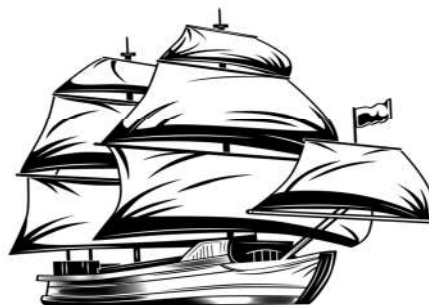
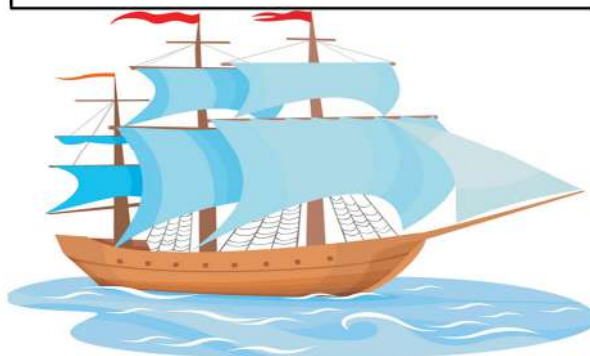
“安全と信頼を提供”

会長 伊東 佳宏

〒455-0032 名古屋市港区入船二丁目4番6号

名港ビルディング 17階

電話: (052) 304-8311 FAX: (052) 304-8312





名阪船舶株式会社

代表取締役 高橋 宏之

〒552-0022 大阪市港区海岸通3丁目2番2号

TEL 06-6572-6221 FAX 06-6574-0635

http://www.meihansenpaku.co.jp

一般港湾運送事業
港湾荷役事業
海上運送事業

通関業
貨物自動車運送事業
倉庫業



代表取締役社長 鶴岡 純一

本社 東京都港区芝浦2丁目2番18号 ☎東京 (3451) 9311℥
千葉支店 千葉市中央区今井1丁目19番25号 ☎千葉 (261) 4431℥
TACS 東京都江東区青海4丁目4番18号 ☎東京 (3528) 3270℥
船橋営業所 船橋市潮見町4番2号 ☎船橋 (437) 7871℥
横浜営業所 横浜市中区南本牧3-8 ☎横浜 (415) 0271℥
ホームページ <https://tohkaikaiun.com>

山友汽船株式会社

代表取締役社長 望月 正信

〒650-0015 神戸市中央区多聞通2丁目1番1号

TEL (078) 371-5505 FAX (078) 371-5520

Email: info@sanyukisen.co.jp

B&S ENTERPRISE

株式会社ビーアンドエス・エンタープライズ

TEL (078) 361-6971 FAX (078) 361-6972

Email: info@bands-k.com

株式会社 コトラシステム

代表取締役 望月 正信

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-12-13
日本橋蛸佐ビル3階

電話 (03) 3245-6975

FAX (03) 3245-6980

E-mail: cotrasystem@nifty.com

・海技教育支援・奨学金
・帆船「海王丸」体験航海・海洋教室 等

公益財団法人 海技教育財団

会長 明 珍 幸 一

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4

電話 (03) 3288-0991 <https://macf.jp>



一般社団法人 日本船長協会

会長 中村 紳也

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5 (海事センタービル)

電話 (03) 3265-6641

FAX (03) 3265-8710

URL <http://www.captain.or.jp>



海事業界向けデータベースのネット公開サービス

「Maritime-iSAP」のご提供

詳しくはこちら <https://www.isap.co.jp/opac.html>

株式会社ISAP (アイサップ)

東京都品川区大井 1-23-4 OValビル4F

電話:03-5709-7525 FAX:03-5709-7527



人と海に未来を

公益社団法人 日本海難防止協会

会長 池田 潤一郎

〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町33-8

元代々木サンサンビル3F

電話 (03) 5761-6050 / E-mail: 2231jams@nikkaibo.or.jp

<https://www.nikkaibo.or.jp>



内海水先区水先人会

Licensed Inlandsea Pilots' Association

会長 橋本 孝亮

〒650-0034

神戸市中央区京町72番地 新クレセントビル3階

電話(078)332-7191 FAX(078)391-7157

E-MAIL info@inlandsea-pilots.jp

■ センボスの宿・健康診断 ■

今の健診 未来の安心 一般財団法人



船員保険会

会長 岡部 修

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6

SEMPOSビル 6・7階

電話 (03) 3407-6061 FAX (03) 3407-6597

URL <https://www.sempos.or.jp>

海事六法 2026年版

2026年1月末日現在の海事関係法令および条約195件を、海運／船舶／安全／船員／職員・審判／海上交通／海洋汚染／保安・その他／条約の9項目に分類して掲載。「海技試験」に必要な法令をすべて収録するとともに、口述試験場への持ち込みが認められている。また、海事代理士試験の規程法令科目にも対応した収録内容とし、実務にも役立つように配慮。

国土交通省海事局 監修

A5判 2188頁 定価 5,280円(税込)

海事六法 2026年版

国土交通省海事局 監修

海文堂



ぼくたちにはみせない なみだ - 漁船海難遺児と母の文集 -

「ぼくたちの前では、なみだをみせない母」—そんな母の強さと、心の中の父にぼくたちは支えられている—海難等の事故により犠牲となった方の妻子による作文およびイラストを集め、一冊の書籍にした。ここに改めて海難事故の根絶と、残された方々の幸せを願って本書を海に眠る人々に捧げます。(漁船海難遺児育英会設立 55 周年)

公益財団法人 漁船海難遺児育英会 編 四六判 184頁 定価 1,320円(税込)

〒112-0005 東京都文京区水道 2-5-4
TEL 03-3815-3291 FAX 03-3815-3953

海文堂出版

<https://www.kaibundo.jp/>
e-mail: hanbai@kaibundo.jp

会員各位 2026年度通常総会 開催通知

1. 日時・場所 2026年6月6日 14時～ 日本教育会館704号室

出欠につきましては、6月3日までにご連絡くださいますようお願い申し上げます。
なお、総会後の懇親会は開催いたしません。

2. 議 題 第1号議案 2025年度事業報告(案)
第2号議案 2025年度決算(案)
第3号議案 役員の選任及び退任
第4号議案 会長・監事・理事の旅費に関して
報告事項 2026年度事業計画(案)及び予算(案)

通常総会が成立するには、会員の半数以上の出席が必要となっています。

総会に出席できない場合は、会報に同封されたハガキにて「委任」または「書面評決」を行なってください。

FAXや電子メール・ホームページ・携帯メールで回答されても有効です。

携帯メールの場合は、右のQRコードをご利用くだされば、簡単に送信できます。

